

# 研 究 紀 要

## 第 27 号

### 目 次

---

はじめに .....	1
所長	坂 本 徹

### 《研究報告》

---

1 高大連携キャリアサポート推進事業に係る研修と 参加する大学生の意識変化について .....	4
～大学生へのアンケート集計分析による一考察～	
育成研修課	社会教育主事 三 浦 博 明
2 家庭教育支援コンテンツの状況と活用事例について .....	26
～これまでの映像事業の沿革と活用について～	
教育活動支援課	社会教育主事 平 山 健 一



## はじめに

「大切なことは、どう生きてきたかではなく、これからをどう生きるかである。」…青森県総合社会教育センターの創設に深く関わり、教育は人づくりとの信念を貫かれた当時の教育長山崎五郎氏が、ことあるたびに口にされていた言葉です。「どう生きるかを考える未来志向の人材を育成せよ。そのために、まず自らがどう生きるかを考えよ。」と、船出したばかりのセンターに幾度となく足を運ばれ、私たち職員を激励して下さったことを思い出します。

それから 20 数年。取り巻く情勢が大きく変わった現在も、センターは依然として本県社会教育の中心機関であり、様々な課題に取り組む事業が展開されています。急激で複雑な変化に柔軟に対応することができたのは、未来を展望するための研究を怠らずに続けてきたからに他なりません。条例に記された第一の業務が「社会教育に関する調査及び研究」であることの意味を分かりやすく教示して下さったのが「大切なことは…」であったのです。

開所と同時にスタートした研究紀要もこのたび第 27 号を迎えることとなりました。その時々課題をテーマとして様々な研究がなされてきました。今後も、変化する社会情勢を冷静に見つめ、これからの社会教育はどうあるべきか、これからセンターは何をすべきかを考えながら、調査・研究を継続していく所存であります。

大切なことはこれからをどう生きるか…それは私たちにとって忘れてはならない基本姿勢なのです。

平成 28 年 3 月

青森県総合社会教育センター  
所長 坂本 徹



# 研 究 報 告

# 高大連携キャリアサポート推進事業に係る研修と 参加する大学生の意識変化について

～大学生へのアンケート集計分析による一考察～

育成研修課 社会教育主事 三 浦 博 明

## 要 旨

高大連携キャリアサポート推進事業（以下、「キャリサポ事業」）は、①高校生の主体性を育み、チャレンジする心を育てる②事業に参加する大学生のコミュニケーション能力やファシリテーション能力等のスキルアップを図るという2つの趣旨で行っている。事業開始から8年を迎えるにあたり、大学生の人財育成に焦点を合わせ、その研修の現状について報告するとともに、系統だった研修が大学生の意識を喚起し、活動の意欲付けとなることを明らかにし、一連の研修でスキルアップを目指した大学生たちの受講後の意識の変化についてアンケートから考察するものである。

キーワード：人財育成，青少年教育，高大連携，コミュニケーション

## 目 次

I	はじめに	5
II	基本研修	6
III	ワークショップ演習	12
IV	合同リハーサル	15
V	振り返り	16
VI	応用研修	16
VII	研修後の大学生の意識	19
VIII	考察	21
IX	おわりに	22

## I はじめに

キャリアサポ事業は、平成19年度に県教育庁生涯学習課が『未来を切り拓く「逞しい高校生」育成事業』の一部として行い、平成20年度から県重点事業として実施し、平成24年度から青森県総合社会教育センターに実施主体を移している。

平成20年度12校で開始した実施校は、平成27年度には過去最多の24校となり、県内の高等学校の約半数が実施実績を持ち、広く認知されている。

本事業は、高校生・大学生両方の人材育成を目的とし、

- ・ 高校生においては、高校生のやる気や意欲を引き出し、チャレンジする心を育むための取組であるワークショップ「キャリアサポ」を実施する。
- ・ 大学生においては、「キャリアサポ」に参加する大学生に対して、コミュニケーション、ファシリテーション等の研修を継続して行い、大学生のスキルアップを図る。

の2点を柱としている。

「キャリアサポ」は、大学生が企画を立案することになるが、その大学生はボランティアである。彼らの熱意、行動意欲が本事業の土台となっており、活動の基礎となる研修に対する参加姿勢も大変積極的である。この研修で一定の研修成果を身につけ、スキルを獲得した大学生が「キャリアサポ」に参加することとなる。(研修体系図は参考資料p23参照)

本稿では、この事業の根幹を成す大学生研修についてまとめることとする。

### 1 基本研修

大学生研修の初めに受講するもので、内容は、キャリアサポ事業におけるオリエンテーション、コミュニケーション、コーチング、ファシリテーションの他、基本的なマナー等についても指導を行うものとなっている。

### 2 ワークショップ演習

基本研修の後に受講する実践編とも言うべき内容となっており、「キャリアサポ」で実施するCBS法、TKJ法、RSB法(詳細は後述)の3手法について演習を行うものとなっている。

### 3 合同リハーサル

上記2つの研修・演習を受講した後、大学生が参加する高校で実施する「キャリアサポ」の手法に合わせ、実施マニュアル、使用するワークシートを実際に使い、本番に慣れるとともに、大学生同士の意見交換を行い、運営の精度を高めていく研修となっている。

### 4 「キャリアサポ」後の振り返り

「キャリアサポ」実施後に60分程度行うもので、ワークショップの目的が達成されたか、高校生の変化はどうであったか、高校生とのコミュニケーションはうまくとれたか、使用したワークシートは高校生のためになったか等について、意見交換を行い、本事業の将来的な質の向上を図るための検討の場となっている。

### 5 応用研修

「キャリアサポ」参加5回以上の大学生の希望者を対象として、キャリアサポ事業のリーダー育成、プレゼンター育成及びより質の高いワークショップ運営等について研修を行うものとなっている。

この研修の修了者は、後輩への指導、プレゼンターへのアドバイス、「キャリアサポ」のリーダーとなることが可能となる。

## II 基本研修

受講する大学生に対して、以下のポイントを説明する。

### 1 オリエンテーション

#### (1) キャリサポとは何か？

ア コミュニケーションをとる方法、発表する手法、ラベルワークにより答えを引き出す方法などについて学んだ大学生がキャリサポを企画する。

イ 高校生と交流しながら、参加した高校生の現在と未来について考えてもらうワークショップを運営する。

#### (2) キャリサポの特徴は何か？

ア 学生はボランティアとして、本人の意志で活動登録し、「キャリサポ」を実施するために必要な研修を受講することで参加が可能となる。

イ 高校生にとっては、より近い年代の学生が対応するため、親や教員よりも話しやすい利点がある。

ウ 大学、高校、青森県教育委員会の三者の協働により実施している事業である。

#### (3) どんな効果があるのか？

ア 高校生は、自分の夢や未来について思い、今自分がやるべきことを考える。

イ 大学生の経験にもとづいたプレゼンテーションを聞き、夢に向かって努力することが大切なことを理解する。

ウ 高校生のやる気と決意を引き出すことができる。

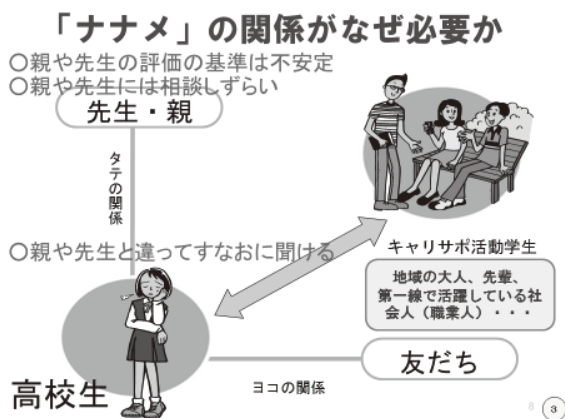


図1 「ナナメの関係」

#### (4) 活動する大学生のメリットは何か？

ア 研修や高校での実践活動によって、コミュニケーション能力が向上する。

イ 自分磨きと自己実現につながる活動によって、新しい自分が見つかる。

ウ キャリサポ事業への参加は、教育分野のボランティア活動であり、社会貢献活動である。

エ 自分の大学だけでなく、他の大学の学生との交流ができる。

#### キャリアサポートプログラムは

高校生と大学生のためのキャリア形成支援プログラム(WIN-WINプログラム)

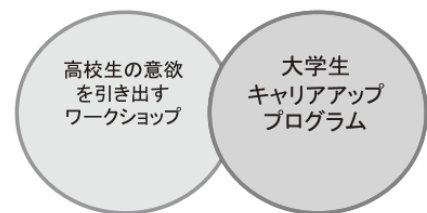


図2 「キャリアサポートプログラム」説明

### 2 コミュニケーション研修

#### (1) コミュニケーションの基本

ア コミュニケーションにおいて大切なことは何かを理解させることをポイントとして講義を行う。

イ コミュニケーションは単なる情報や知識のやりとりではなく、互いに理解し合い、意思や意味、感情を分かち合うことであることを説明する。

#### (2) 心のシャッターを開けるスキル

ア 心のシャッターを開けることの重要性を理解させ、そのスキルを身につけさせることを目的に行う。

イ 雰囲気づくりには、場所、照明、時間帯、相手の呼び方、座る位置・座り方等のポイントがある。キャリサポでは、ニックネームを使ってお互いを呼び合い、車座で座り、一体感を感じ、お互いの気持ちを共有することを意識させる。

ウ 声の大きさ、話すスピード、姿勢、視線の高さ、言葉遣い等を相手に合わせるペーシングを意識させる。

エ 初対面の大学生と高校生の緊張をほぐし、その後の活動を円滑に行うために、ゲームの要素を取り入れたアイスブレイクという活動を実施させる。

(3) 聴き上手になるスキル

ア 傾聴の重要性と効用を理解し、聴き上手になるためのスキルを身につけさせることをポイントに行う。

イ 一般に人の話を聴くよりも、相手に自分の話を聴いてほしいという人のほうが多く、話をする側は、相手に受け止めてもらえれば満足感を得てリフレッシュした気持ちになれることを意識させる。

▶話をしっかり聴くことで相手の中に起こること

- ①受け止められているという安心感が生まれる。
- ②自分の話には価値があるという自信になる。
- ③自分には存在価値があるという自己肯定感につながる。
- ④自分が何を感じているのか、思っているのかははっきりする。
- ⑤新しいアイデアがひらめいたり、バラバラだったイメージが統合されたりする。
- ⑥感情を表現することで、気持ちが楽になる。  
【カタルシラス効果：内面の浄化作用】

図3 「聴くことで相手の中に起こること」

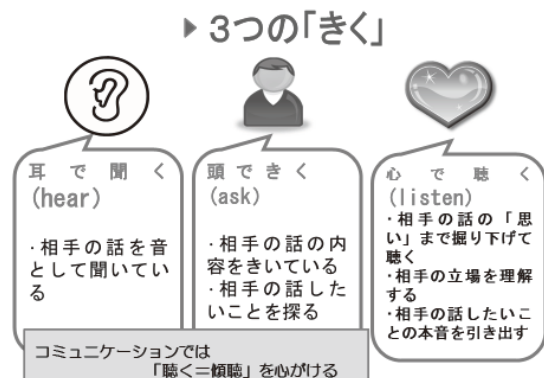


図4 「3つの『きく』」

ウ 聴き上手になるための基本的な心構えとして・・・，以下の点を説明する。

- (ア) 相手の立場に立ち、相手の枠組みに沿って聴く。
- (イ) 批判や自分の意見はさげ、相手の話や考えをそのまま受け入れる。
- (ウ) 共感的理解を図るよう、意図や気持ち、感情などを全体として聴く。

(エ) 自分自身の気持ちや心の動きをよく把握する。

エ 具体的な行動として、目を見る、微笑む、うなづく、相槌を打つ等を心掛けさせる。

オ 話を聴きながら、「繰り返し」と「要約」を行い、確認と明確化を図ることを意識させる。

(4) 気持ちを上手に伝えるスキル

対人距離やボディランゲージ等非言語的コミュニケーションを例として、気持ちを伝える要素とポイントを押さえる。

(5) 上手なキャッチボールをするために

双方向コミュニケーションの効用を理解させ、ストレスを生み出さない、上手なキャッチボールのスキルを習得させる。

(6) 価値観の多様性を認める

演習をとおして、人それぞれのものの考え方、価値観に気づきながら、お互いの理解を深めさせる。

演習後には、以下の点を説明する。

ア 価値観はものさし

価値観とは「ものの考え方や判断の基準になるもの」である。意見が合わなかったり食い違ったりするのは、価値観の相違によることが多い。

イ 価値観は人それぞれ

価値観は人それぞれで異なるものである。様々な考え方があるほうが自然である。人間関係はお互いが異なっていることを認めることから始まるもので、異なっていることこそ大切である。

ウ 価値観は作られるもの

価値観は「その人が通過してきた集団や関わってきた人との関係」の中でつくられる。だから、異なっていて当然である。

エ 価値観は変えることができる

価値観は、様々な経験を重ねる中で変わっていくものである。ということは、これから先、様々な経験の中で能動的に自分の意志で価値観を変えることも可能である。

オ 価値観の違いを超えて

意見が対立した場合、お互いの考え方を押し付け合うのではなく、「価値観」のレベルまで遡って話し合ってみてはどうだろうか。お互いに、自分の考えとその理由、なぜそのように考えるのかということらを率直に話し、それに耳を傾けてよく聴くのである。そうすることで、お互いを受け容れ、相手の考え方が理解できるようになる。

相手の考え方を理解するという事は、相手と自分の考え方を一致させるということではない。結果的に一致することもあるだろうが、一致しなくても相手の考え方を受け入れることはできるはずである。

### 3 コーチング研修

#### (1) コーチングの概要

コーチングとは、人材育成を行う手法の1つであり、相手の自発的な行動を促進させるためのコミュニケーション技術である。

ア 会話によって相手の能力を引き出しながら、主体的に行動することを促すコミュニケーションスキルであるというコーチングの基本について講義を行う。

イ 正解を与える「ヘルプ」ではなく、解き方をサポートするという考え方を徹底する。

ウ 「聴いて受け止め」、「質問して引き出す」高度なコミュニケーションスキルであることを理解させる。

エ キャリサポにおいては、高校生の話をよく聞いて、高校生の考えを引き出していくことが重要になってくることを意識させる。

#### (2) 聴いて受け止める

ア この「聴いて受け止める」姿勢から始まることを理解させる。

イ 相手の話を聞きながら、以下のポイントを心がけるよう促す。

(ア) 相手の心理状態を把握する(表情や体の動きをよく観察しよう)

(イ) 話の方向性を確認する「今後の対策について話したいと言うことですね」

(ウ) 相手の論拠を検証する「なぜそう思うのか、具体的に話してもらえますか」

(エ) 論点を整理する「ちょっと整理をしてみましょう。つまり、～ということですね。」

#### (3) 質問して引き出す

質問の種類について理解を深め、「聴いて受け止め、質問して引き出す」ロールプレイ台本作り」の演習を行う。

ア 拡大質問と限定質問

(ア) 拡大質問「好きな果物は何ですか？」

(イ) 限定質問「りんごとみかん、どちらが好き？」

イ 肯定質問と否定質問

(ア) 肯定質問「部屋の片づけは何時に終わりそう？」

(イ) 否定質問「いつになったら、部屋を片づけるの？」

ウ 未来質問と過去質問

(ア) 未来質問「次はどうすればうまくいかな？」

(イ) 過去質問「なぜ、失敗したんだろう？」

(例)

生徒「最近、疲れやすいんです」

◎教師「そうか、どうしたんだろう」

生徒「ストレスかな。テストが近いから気になっているんです」

教師「へー、そうだったのか」

生徒「準備が十分ではない気がして」

教師「そうかー。それで？」

生徒「基礎問題をもう一度やり直してみます」

教師「そうだな、それがいいかも。しっかりやれよ」

生徒「はい！」(\*^ワ^\*)

図5 「ロールプレイ台本」

#### (4) こう着を打開するスキル①「仮定質問」

現状に拘束され、打開が難しい場合、仮定の話(=仮定質問)をして本人に気づかせる。

(例)・もし、成績が伸びたら

・もし、自分がリーダーになったら

(5) こう着を打開するスキル②「リフレーミング」

ア リフレーミングとは、「フレーム」つまり、認知の「枠組み」を変えろということであり、私たちが身の周りの出来事に対して、個別に何らかの意味付けを行っていることについて、「見方を変えてみる」ことを説明する。この方法は、キャリサポのワークショップにおいて、しばしば活用され、研修結果がよく反映される場面となっている。

イ この方法の効用として、ネガティブな意味づけをポジティブに変えて、気分を改善することが挙げられる。その人が持っているマイナス要素を、別の状況で使うことを想定して良いイメージをさせる。

(6) 強みを引き出すスキル

ア 長所を伸ばすことの大切さを理解させる内容であり、以下のポイントを説明する。

(ア) 相手の「強み」を知る

相手をよく観察して、強み（リソース＝資源、財産）を知る。

(イ) 「強み」に気付かせる

状況を把握させ、弱点を克服しようとするか、強みをさらに伸ばそうとするか、どちらが正解というものではないが、コーチングにおいては、「強みを伸ばすこと」に積極的にかかわってみることを推奨する。

(ウ) 目標を宣言させる

・目標設定を本人にさせる。(あるいは設定のプロセスに参加させる。)

・目標は次のようであること。

a…具体的であること(定量化できる、記録可能)

b…達成可能である

c…目標に意欲的になれる

イ キャリサポにおいては、高校生が主体的に目標を設定することにより、課題解決への行動が加速することを強調する。

## 4 ファシリテーション研修

ファシリテーションについて理解を深め、ファシリテーターになる意識を育てる。

ファシリテーションとは、「促進する」「容易にする」「円滑にする」「スムーズに運ばせる」というのが原意である。

人々の活動が容易にできるよう支援し、うまく進行するのがファシリテーションで、例えば、集団による課題解決、アイデア創造、合意形成など、あらゆる創造的な活動を支援し促進していく働きを意味する。

また、その役割を担う人がファシリテーターで、「活動や合意形成の進行役」のような意味になる。「キャリサポ」においては、全体の進行役を務めるとともに、参加者の活動やお互いのコミュニケーションが円滑に進むよう、様々な方法で働きかけを行うのがファシリテーターである。

(1) ファシリテーション4つのスキル

ア 場のデザインのスキル

《場をつくり、つなげる》

何を目的にして、誰を集めて、どういうやり方で議論していくか、相互作用が起こる場づくりからファシリテーションは始まる。

イ 対人関係のスキル

《受け止め、引き出す》

活動がスタートすれば、自由に思いを語り合い、チーム意識と相互理解を深めていく。ファシリテーターはしっかりとメッセージを受け止め、そこに込められた意味や思いを引っ張り出していかなければならない。

ウ 合意形成のスキル

《かみ合わせ、整理する》

論理的にしっかりと議論をかみ合わせながら、議論の全体像を整理して、論点を絞り込んでいく。

エ 構造化のスキル

《まとめて、分かち合う》

議論がある程度煮詰まってきたら、創造的なコンセンサスに向けて意見をまとめていく。対立解消のスキルが求められる。

合意ができれば、活動を振り返って個人や組織の学びを確認する。

※ ファシリテーターに必要なコミュニケーション技術

- ・ 雰囲気づくりの技術
- ・ 人をほめる技術
- ・ 思いを引き出す技術
- ・ 人を動かす技術
- ・ 場を読む技術
- ・ 人の話を聴く技術

(2) ファシリテーターに求められる姿勢

ファシリテーターの姿勢として以下のことを求めていることを説明する。

ア 参加者の主体性を尊重し、操作的な言動は慎む

いつも参加者の立場に立って、主体性を尊重する。ファシリテーターの思うような方向に参加者をもっていかない。結果を意識しすぎたり、焦ったりしない。

イ 楽観的、開放的な姿勢で関わる

ファシリテーターが楽観的で、開放的に振る舞うと、参加者に安心感を与え、参加者が自分を見つめられるようになる。それが、新しいことにトライしようという気持ちを起こさせることにつながる。

ウ 討議プロセスをよく観察し、状況を把握する

参加者の表情や態度、グループの様子などを、ありのままに観察し、参加者の内側で起こっていることやグループの中で起こっていることを良く理解、把握する。

エ 問題の解答を教えるのではなく、解決は本人に委ねる（コーチングの活用）

安易に問題の解答を教えない。解決するのは本人またはグループ員であって、解答が出てくるように促す。

オ 相手の言動を評価したり、分析したりしない

人は意識・無意識を問わず、相手を評価的に見ていることが多いもの。それは参加者との信頼関係形成にはマイナスに働くことになる。ありのままに受け入れることが求められる。

(3) ファシリテーション5つの効果

これまで述べてきたことから、良いファシリテーションが行われていくと以下のような参加者の「主体性」と「可能性」を引き出す効果が上がることを説明する。

ア 発言が活発になるようになる

「楽しい＝自由な雰囲気」によって、参加者の主体性と可能性を引き出すことになり、参加者は自由に発言するようになる。

イ 決めたことを実行するようになる

人はいろいろな意見を言っているうちに、その課題が自分の課題となり、自分でやらなくてはと思うようになる。

ウ 能力を最大限に発揮するようになる

ワークショップや会議を工夫することにより、全員がよりよい答えを出そうと全力を出すようになる。

エ 発言力の弱い人でも意見が言える

自分の意見をカード等にかき、それをグループ内で発表することによって、全ての人の意見が出るようになる。

オ 自分の組織に誇りを持てるようになる

自由にものが言える雰囲気の組織に属していると、その組織を好きになり、誇りを持てるようになる。



図6 「上級生によるグループワーク」

#### (4) ランキング演習

ここまでの講義の応用として、RSB法のベースとなる「ランキング」について演習を行う。

### 1 ランキングとは

・テーマについての事柄に優先順位をつけることで、考えを整理したり、多様な判断を検討することで、理解を深めたりできます。

・ある課題について用意された、いくつかの選択肢を、良いと思うものから順に並べていきます。

・その過程の中で、グループ員どうし意見を交換しながら順番を決めたり、個人で行った後で、他の参加者と比べながら議論するというものです。

図7 「ランキングとは」

### 2 ランキングの長所

(1)参加者の人数に関係なく(5人でも100人でも)できる。

(2)選択肢の設定の仕方しだいで、どんな年代の参加者にも対応できる。

(3)比較的短時間(20~40分)でできる。

(4)特別な道具がいらない。

(5)進行役に、とくに高度な技能が要求されない。

図8 「ランキングの長所」

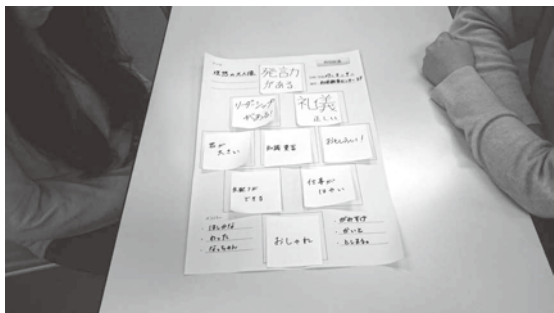


図9 「RSB法でのランキング演習」

#### (5) CBS法ワークシート演習

CBS法では、「第1ステージ:「今」までの自分を知る」と「第3ステージ:「これから」を考える」でワークシートを使って、高校生の現在と未来について考えさせる。

基本研修では、受講生がワークシートを使って「自己理解」をする体験をし、同時にどのようなファシリテートをすれば、「キャリアサポ」参加者の考えをスムーズに引き出すかを学ぶ。

##### ア ワークシートを使う理由

キャリアサポートプログラムは、高校生のキャリア形成支援事業であり、自らのキャリアデザインなどについて考えてもらう取り組みである。

そのため、「今までの自分を知る」→「どうなりたいのか考える」→「そのためには、どうすればいいのかを考える」ことが必要である。ワークシートを使いながら、ファシリテーターとともに考える機会をしっかりと位置付けている。

##### イ 自己理解は自分への気づき

・Who am I? (私は誰?) → 自己理解 (気質, 興味など)

・Where am I going to? (私はどこに行くの?) → キャリア・ビジョン, キャリア・プラン

・How can I go there? (どうすればそこに行けるの?) → 能力開発, キャリア選択

自己理解とは、自身の個性を持つ自分が、何をやりたいのか、そのためにはどんな道筋で何をしなければならないのかの問いかけであることを理解させる。

##### ウ 自己理解のプロセス

(ア) 今までの自分を書き出してみる

自分の特性, 好き嫌い, 得手不得手, 判断基準, ヤル気などについて, ワークシートに書き, 自分の目で再認識する。

(イ) 自分のことを人に話してみる

人は自分のことばで表現し, 話してみても, 自分に気づく。

(ウ) 人の話を聴く

他人と話をしていく中で, 他の人の考え方や行動, 目標などを聴き, 自分と照らし合わせることにより, 自分に気づく。

## (エ) 相談する

カウンセリングを受けることにより、自分を整理して見るができる。メンター（相談者）から助言を受けながら、自分を理解していくことができる。

### CBS法 第1・2・3ステージの構成

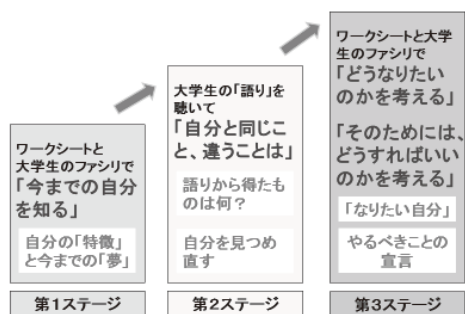


図10「CBS法の構成」



図11「第1ステージでの大学生との対話」



図12「第2ステージの語り」



図13「第3ステージの目標設定」

## Ⅲ ワークショップ演習

この演習では、ワークシートの構成と各ステージで高校生とコミュニケーションをとるねらいを体験する。

### 1 CBS法

#### (1) CBS法とは？

「Communication・brainstorming」コミュニケーション・ブレインストーミングの略。

小グループの中で行われるコミュニケーション重視型のブレインストーミング法のことである。グループ活動では、参加者の主体的な関わりから、多くの学びを得ることが重要で、グループのクルーは、参加者が「やってみよう」「取り組んでみよう」と思える学びの場を作り上げることが大切である。また、活動のねらいを十分に理解した上で、参加者の状況の把握や参加者の戸惑いや抵抗も含めて、それぞれのコミュニケーションという関わりの中で起こることを、大切にしていくことも忘れてはならない。

一人ひとりの存在を大切にし、お互いに学びあう関係づくりを意識しながら、現在の自分を語り合うことで、信頼し話し合える雰囲気を作り出すことができ、自分自身を深く見つめ直すことや、他者との関係や自分の傾向に気づく等の効果が得られる手法である。

※ブレインストーミングとは、米国の広告代理店BBDO（現BBDO Worldwide Inc.）の副社長だったアレックス・F・オズボーン（Alexander Faickney Osborn）が1940年前後に考案した。

ブレインストーミングは、集団（小グループ）によるアイデア発想法の1つで、グループメンバーが自由にアイデアを出し合い、互いの発想の異質さを理解し、連想を行うことによってさらに多数のアイデアを生み出そうという集団思考法・発想法のこと。ブレインストーミング、省略して、「ブレスト」「BS」ともいう。

#### (2) 第1ステージ

第1ステージの命題は、（高校生各自の）「今までの自分を知る」ということである。

また、第3ステージにつなげていくために、グループの高校生とコミュニケーションをとり、打ち解けておくことが大切である。高校生が第2ス

ページのプレゼンテーション「語り」に興味をもって聴くことができるように、適確にアドバイスをして誘導していくことも必要である。

ワークシートの中の質問項目は、これらのポイントを押さえながら設定されている。ワークシートは、高校での「キャリサポ」全体の方向性を示すものであり、「キャリサポ」のテーマと連動するものとして、チーフディレクター等運営スタッフが、もっとも工夫をする部分である。ワークシートは、イラスト・カットへのこだわりだけでなく、設問がハッキリと読めることが重要となる。

**ワークシートの設定(第1ステージ)**

◆タイプ・性格判断 (check box)

自分の特性を知る。自分の性格や好き嫌い、得手不得手、判断基準、ヤル気などをチェックしながら、自分を見つめ直すために設定します。

例)

<input type="checkbox"/> 熱血	<input type="checkbox"/> 冷静	<input type="checkbox"/> 行動派	<input type="checkbox"/> 慎重派、
<input type="checkbox"/> ポジティブ	<input type="checkbox"/> ネガティブ	<input type="checkbox"/> 人見知り	<input type="checkbox"/> 社交的
<input type="checkbox"/> 家にいるのが好き	<input type="checkbox"/> 出かけるのが好き	<input type="checkbox"/> あきっぽい	
<input type="checkbox"/> 細かい作業が好き	<input type="checkbox"/> 勉強が好き	<input type="checkbox"/> 部活が好き(体を動かすことが好き)	
<input type="checkbox"/> 何かと世話好き	<input type="checkbox"/> 人には譲れないポリシーがある		
<input type="checkbox"/> 色んなことに興味がある			

**ワークシートの設定(第1ステージ)**

◆質問形式での自己判断

質問形式で性格や特性、意欲を聞く方式もあります。

例)

- ・自分の長所、短所
- ・私は\_\_\_\_\_な性格で\_\_\_\_\_している時が一番楽しいです。
- ・自分にとって一番大切なものは\_\_\_\_\_です。
- ・自分を一言であらわすと
- ・今やってみたいことは何?
- ・何か資格をもっている?
- ・将来やってみたいこと、興味のあることは ある・ない

**ワークシートの設定(第1ステージ)**

◆レーダーチャートでの自己判断

高校生の性格やタイプのわかる項目を設定して、現在と未来(なりたい自分)を考えてもらいます。

図 14 「様々な自己診断」

以上のような自己判断をとおして、高校生が自分のこれまでを振り返り、大学生との対話から、将来の夢や目標に考えを馳せていけるようにすすめる。

### (3) 第3ステージ

第3ステージの命題は、(高校生各自の)「これから」を考えるということである。第1・2ステージで高校生が気づいたこと(今の自分、「語り」を聴いて得たこと)を「なりたい自分」に近づくために具体化していく作業を行う。

最終的に、気づきの確認、なりたい自分のイメージ、今の自分に足りないこと、何をすべきかを自分で考えるというステップを踏んで、明日から自分が取り組むことを高校生が宣言する。

その他、各ステージでの高校生との対話や戸惑った事例などについて、上級生との意見交換も行う。

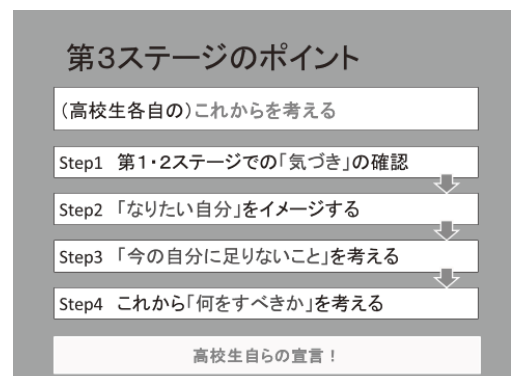


図 15 「第3ステージのポイント」

## 2 TKJ法

### (1) TKJ法とは

「trump・kj」トランプ・ケージェー法の略。ソニーの常務取締役であった小林茂氏により、「チーム発想」のツールとしてKJ法を基に開発された。トランプのような進行スタイルから「トランプ式チーム発想法」とも呼ばれ、ゲーム感覚で楽しみながら参加できる。

様々な意見が整理・構造化され、隠れた課題が発見されたり、取り組みの方向性が浮かび上がってきたりする。ソニーにおいて組織革新の有効な方法として推進され、各工場において大きな実績を上げた。

※KJ法とは、無秩序で雑然とした定性データ(事実、意見、アイデア)群を、一度カードや付箋(ふせん)紙などに分解し、これを人間の直観力を用いて図解・文章に統合することで、意味や構造を読み取り、まとめていく方法である。

漠然としてつかみどころのない問題を明確に

し、思いもしない解決策・新しい発想を得るために用いられる。個人の思考と集団のそれをほとんど区別しないため、個人の発想技法としてだけではなく、複数の人間による共同作業、合意形成などにも使われる。KJ法という呼び名は、これを考案した文化人類学者川喜田二郎氏のアルファベット頭文字からとられている。

## (2) TKJ法を実施する上での留意点

### ア 早さは競わない

ゲーム感覚で参加できるのがTKJ法の特長の一つだが、グルーピングや表札づくりの早さを競うものではない。

### イ 最初にカードの意味を確認する

最初に、配布されたカードの意味を確認しよう。

### ウ 安易なグルーピングをさせない

カードを場に出す前に、「第1サイクルは『同じ意味』で、第2サイクル以降は『似た意味』で。」を強調する。ただし、いったんグルーピングされたカードの束の「解消」はしない。

### エ 表札の吟味では白熱した議論を

表札の吟味においても安易な雰囲気になれないように注意する。議論する過程がTKJ法ではきわめて重要であるため、意見が出ない場合は、カードを書いた一人一人に「本当にこれでいいか？」と聞いてみるなど、工夫が必要である。

### オ 空間配置は慎重に

カードの束をばらす時は、リーダーの指示で、ゆっくりと行う。模造紙への貼付は、カードや表札の順番、相互関係等を考えて慎重に行う。

### カ 発表の前に、グループ員全体で味わう

カードの吟味や表札づくりの際の議論の過程をふり返ることにより、グループの一体感が強まる。



図16「空間配置を模造紙に作成」

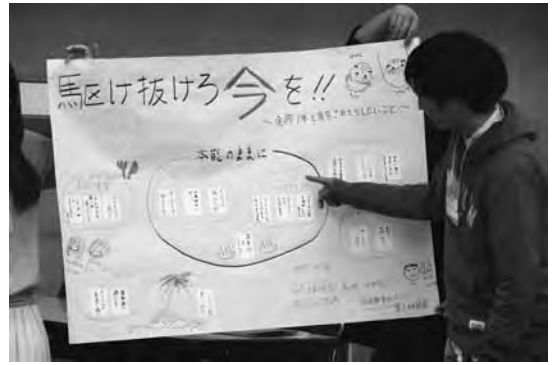


図17「TKJ法の全体共有」

## 3 RSB法

### (1) RSB法とは

「Ranking・swap・battle」ランキング・スワップ・バトルの略。

ダイヤモンドランキングを用い、テーマについて、カードを交換しながら、グループ内で話し合いを深めていく手法である。

ランキングという方法は、参加型学習の場でよく使われる手法である。このダイヤモンドランキングは選択肢が決まってい、なおかつ同列に並ぶ部分がいくつもある、時間的にも長くなりすぎず手軽にできる。

選択肢はどれも重要でいろいろな観点のものが多様に入っているという条件で考えると効果的である。ランク付けして1番を決めることが目的ではなく、ランキングするうちに自分の基準と違う見方を他の人から示されて、そこにいろいろな気づきが生まれることを大切にしたい活動である。

つまり、参加型学習の醍醐味である参加者同士の相互作用が実感できる手法である。



図 18 「付箋に記入」



図 19 「カードをスワップ」

(2) RSB 法を実施する上での留意点

ア 早さは競わない

TKJ 法同様、じっくり考えてカードを交換できるようにファシリテーションする。

イ 自分なりに考えることが大事

理由を必ず言ってカードを交換させる。

また、パスは第3サイクルからというルールを守る。

ウ 結果を味わう

ランキングが変わっていく過程の意見を振り返ったり、最終的にできたランキングと自分の中に持っていたランキングとの違いの理由を考えたりして思考を深める。



図 20 「RSB 法での全体共有」

## IV 合同リハーサル

合同リハーサルでは、高校での「キャリアサポ」を円滑に進め、高校生に満足してもらおうと、大学生たちが意見交換を進める。

(1) マニュアルの読み合わせ

ア リーダーが設定したテーマを全員で共通理解する。

イ 「キャリアサポ」の流れは良いか、高校生が戸惑わないか等の観点で話し合う。

(2) アイスブレイク体験

「キャリアサポ」で使用するアイスブレイクの練習をする。



図 21 「アイスブレイク体験」

(3) 手法の確認

TKJ 法、RSB 法実施には、ファシリテーター経験や知識・技能も必要であることから、細心の注意を払い、手法の手順を確認する。

(4) ワークシートのチェック

大学生自らが実際に記入をしてみて、ワークシートの内容が高校生にとってわかりやすいもの、記入しやすいものになっているかを確認する。

(5) 基本的な事柄

ア 服装、容儀、挨拶について

イ 個人情報について

ウ 持ち物について

この合同リハーサルに向けて、リーダー、サブリーダーの運営を担当する大学生は、打合せを複数回持ち、「キャリアサポ」参加大学生に対して、わかりやすく運営をするべく、印刷物・用具・物品の準備等を協力・分担して仕事を行っている。

## V 振り返り

高校での「キャリアサポ」終了後、参加者が全員で反省会を行っている。その内容は、

- (1) 「キャリアサポ」のテーマは、高校生の実態に合っていたか。
- (2) テーマは高校生にわかりやすいものであったか。また、高校生に伝わっていたか。
- (3) 高校生とのコミュニケーションはどうであったか。
- (4) 高校生の変容はどうであったか。
- (5) 大学生（自分）のコミュニケーション能力はどうであったか。
- (6) 次回の「キャリアサポ」への改善点は何か。

<大学生提出用>

[ \_\_\_\_\_ ] 高校企画ふりかえり用紙  
→  
\_\_\_\_\_ 色グループ、ニックネーム \_\_\_\_\_

(1) 今日のワークショップでよかったところは？

① 企画内容について

② 自分自身について

(2) 今日のワークショップを通して感じた改善点は？

① 企画内容について

② 自分自身について

(3) (1)(2)以外で、企画に参加して、気づいた点やアイデア、感想などあれば記入してください。

図 22 「振り返りシート」

## VI 応用研修

キャリアサポの安定的な運営には、「キャリアサポ」を運営するリーダー、補助する学生及びプレゼンターの育成が不可欠である。応用研修では、意欲のある大学生の更なるスキルアップと人材育成を目的として、以下の内容で研修を行っている。

(1) 応用研修の意義

- ア 大学生のスキルアップを図る
- イ 大学生のモチベーションの向上を図る
- ウ 大学生研修の指導者育成
- エ リーダー養成(企画リーダー及びプレゼンター)

(2) 研修の柱

- ア 企画リーダー、運営スタッフ候補としてのスキルアップ

よい企画を創るためには、チーフの能力だけでなく、運営スタッフの事業に対する理解と能力が欠かせない。

- イ プレゼンター養成と認定者としての能力向上

語り手がいないと企画が成立しない。プレゼンテーションの作り方について、学習する場が不可欠である。

- ウ キャリサポの現状の課題克服

(ア) 高校側のねらい、高校生の実態、リーダーのオリジナリティを融合させ、コンパクトな運営

(イ) 各手法、各ステージのねらいに対応した運営及びワークシートの作成

(ウ) 振り返りの内容の引き継ぎ、各提出物の内容、締切の厳守

(3) 講義「キャリアサポの目指すところ」

- ア なぜ、キャリアサポ事業が必要なのか？

(ア) 県の「青少年の意識に関する調査(26年度)」によると、高校生の約52%が「将来のこと」について悩んでいる。その悩みを相談する相手として「お母さん」が約54%、友達が約48%を占めているが、「誰にも相談できない」が約12%いる。

(イ) 父母等には信頼性はあるが話しにくい、友達には話しやすいが信頼性が薄い面があることから、高校生にとっては、

高校を卒業した少し先輩の大学生から悩みの解消のヒントとなる体験談やアドバイス等の生の声を聞くことが、大学生活や進路目標を明確にでき、不安や疑問の解消につながる。

(ウ) 県教育委員会の「困難を有する若者等のニーズに関する調査」(平成27年度)によると、教員が把握した高校在学中の悩みや不安では、中途退学者及び不登校ともに、『人とのコミュニケーションがうまくとれない』が最多の44.9%となっている。

(エ) 高校生の目標設定へのモチベーション高揚や維持には、高校生の主体性(自らのやる気)が欠かせないことから、高校生の背中を押す斜めの関係の大学生の力が必要である。

(オ) 事業開始から9年を経過し、県内公立高校に広く認知され、実施校数が安定的に推移している。

(カ) 大学生にとって、実社会に向けたコミュニケーション力等のスキルアップの場となっているほか、ボランティア活動による人材育成の場にもなっている。

イ キャリサポでつきたい力は？

「高校生にとって」

- 「主体性」
- 自分を見つめる力
- コミュニケーション能力
- 課題対応能力 等

「大学生にとって」

- コミュニケーション能力
- プレゼンテーション力
- 企画立案・遂行能力
- 人を動かす力・交渉力・調整力
- 責任感

(4) 演習「マネジメント」

ア キャリサポのリーダーとしての仕事の洗い出しを行い、内容や優先順位について検討を行う。

イ ここでは、上級生がリーダー経験者の視点からアドバイスをを行い、参加者から好評を得ている。

## 領域時間管理シート

回答例

キャリアサポ必要業務		緊急	
重要度高	① クルー集め	第1領域 (速に行う)	第2領域 (重要・時間をかけて)
	② H.P.でのテーマ紹介		
	③ 運営スタッフ依頼・確定		
	④ テーマ紹介の確定		
	⑤ 企画テーマ設定	第3領域 (重要度は低いけど確実に)	第4領域 (企画終了後行う)
	⑥ ワークシート作り		
	⑦ 実施校との打ち合わせ		
	⑧ BGM用CD		
	⑨ 企画テーマ等連絡		
	⑩ 盛り手紹介シート作成		
重要度低	⑪ バス利用と乗車場所確認	第1領域 (速に行う)	第2領域 (重要・時間をかけて)
	⑫ 企画使用物品等準備		
	⑬ クルーへの感謝		
	⑭ 実施報告書提出		
	⑮ アンケート集計提出	第3領域 (重要度は低いけど確実に)	第4領域 (企画終了後行う)
	⑯ 出		
	⑰ 出		
	⑱ 出		
	⑲ 出		
	⑳ 出		

図23 「領域時間管理シートを使った演習」

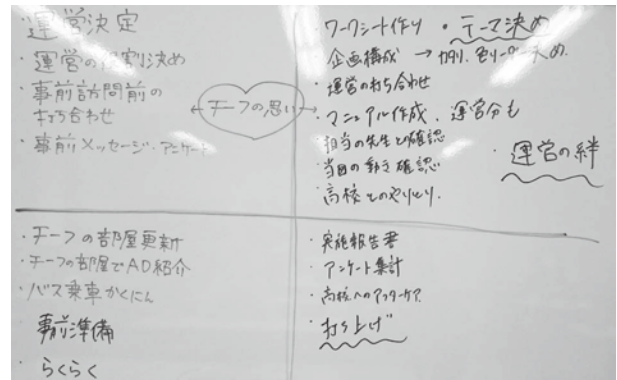


図24 「リーダー経験者の意見」

(5) 講義「リーダー、運営陣の仕事」

ア 「キャリサポ」2か月前を目途に、実施校との打ち合わせを行う。

イ 運営メンバーの確定をする。

ウ 「キャリサポ」参加大学生の募集をする。

エ ホームページ、メーリングリスト、SNSを使って、「キャリサポ」の内容を発信、周知を図る。

オ 企画マニュアルの作成をする。

カ 合同リハーサルを行う。

キ 「キャリサポ」使用物品の準備を行う。

ク 「キャリサポ」の運営を行う。

(6) 演習「ワークシートを作ろう」

ア 過去の「キャリサポ」で使用したワークシートを参考にしながら、自分がリーダーになった場合のワークシートを作成する。

イ 作成したワークシートをグループで発表し合い、意見交換する。

ウ 上級生からアドバイスをもらい、修正を行う。

(7) プレゼンテーション演習

ア プレゼンテーションの基礎

プレゼンテーションの3つの要素

(ア) Personality (人柄)

(イ) Program (内容)

(ウ) Presentation skill (伝達技術)

プレゼンテーションは、誰が(人柄)、何を(内容)、どのように伝えるか(伝達技術)という3つの要素で構成されている。プレゼンテーション研修というと、③伝達技術のイメージが強いように受け取られるが、あくまでも「人柄」や「内容」があつての「伝達技術」である。

イ 内容を構成する3つの重要な要素

(ア) 何を伝えるのか

(イ) 誰に伝えるのか

(ウ) 何のために伝えるのか

効果的なプレゼンテーションのためには、「何を伝えるのか」が明確でなくてはならない。また、「誰に」「何のために」についても明確にすることが重要である。つまり、高校生に対して、大学生本人が何を伝えたいのか考えさせていく内容となる。

ウ 話を組み立てる技法

(ア) SDS法…話の全体的な構成方法として使われる。

・Summary (全体要約) これから何を話すかを要約して概要を話す。

・Details (詳細説明) 本論を詳しく話す。

・Summary (全体要約) もう一度何を話したかをまとめる。

(イ) 起承転結…小説やドラマで用いられる基本の形。

(例) 小学校1年生が先生に話をしています。

どちらが心に残るでしょうか。

Case 1

昨日おばあちゃんと動物園でおいしいソフトクリーム食べたんだよ。(ふ～ん。)

Case 2

起:先生、あのね。昨日ね。(ああ昨日のことなのね。)

承:おばあちゃんが来たの。(話はおばあちゃんのことか。)

でね、動物園に行ったんだよ。(そか、動物園で何かあったんだな。)

転:そこでソフトクリーム食べたの。(え?ソフト??)

結:すごくおいしかったよ。(な～んだ、食い気の話だったのか。もう～っ!!!)

(ウ) 組み合わせによる効果

(例1) SDSと起承転結

S 今日、私が実際の経験を通して得たものについて話したいと思います。

D 起 以前、私は自分に自信が無く、引っ込み思案な性格でした。

承 大学入学後、友人にキャリアサポ研究会に入らないかと誘われました。試しに受けた研修は意外に楽しく、他大学生の交流も魅力でした。

転 思い切って「プレゼン」に挑戦したところ、高校生が本当に真剣に聞いてくれて感激しました。

結 それを契機にいろんなことに積極的に関わるようになり、自分に自信を持てるようになりました。

S この経験から私は、「まずは第一歩を踏み出してみることが大切だ」ということを知りました。

(8) プレゼンテーション設計・作成

ア 何の話をするか、何を伝えたいのかを決める。

イ 3つの重要要素を確認する

「誰に、何を、何のためにか」を確認するこれがぶれると、プレゼンテーションは成功しない。

ウ ストーリーの骨格を洗い出す

(ア) どんな状況だったのか。

(イ) タイトルを仮に付けてみる。

エ 素材の整理をする

(ア) キーパーソンを挙げる。

(イ) エピソードを用意する。

(ウ) 話の骨格になるキーワードを考える。

## オ 素材の掘り下げ

- (ア) 自分の変化, 何で変わったのか, どのような困難があったのか, 克服するための工夫, どのような人に助けもらったのか
- (イ) 夢やなりたい自分はどう変わったのか
- (ウ) 高校生に役立つこと, 伝えたいことは何か。

## カ 起承転結の確認と分類

### キ ストーリーの作成

- (ア) 基本のストーリー (あらすじ) を考える  
あらすじを考えながら, 再度起承転結を再点検する。この作業でプレゼンテーションの枠組みが決まる。この部分をしっかり固めないと相手に伝えたいことがよく伝わらない。
  - (イ) エピソードなどを加えて内容を充実させる。
  - (ウ) エピソードなどを加えて内容を充実させる。「誰が, 誰に, 何をして, どうなったのか」この作業でプレゼンテーションの全体像ができあがる。
  - (エ) あまり懲りすぎると逆効果になるので注意が必要である。
  - (オ) メリハリをつける, サプライズを盛り込む, エピソードや実例を挿入するなど。
  - (カ) 何を伝えたいのか, 明確になっているのかを点検する。
  - (キ) 結論が急に, 付け足したように出てきてはいないか。
  - (ク) 筋道が立っていて, 聞き手が納得できるようになっているか。
  - (ケ) プレゼン時間がオーバーする可能性はないか。
- ## ク 効果的な演出を考える
- (ア) 小道具を使う (写真, 音)
  - (イ) 衣装, 歌, ダンス, 劇
  - (ウ) 実演を取り入れる

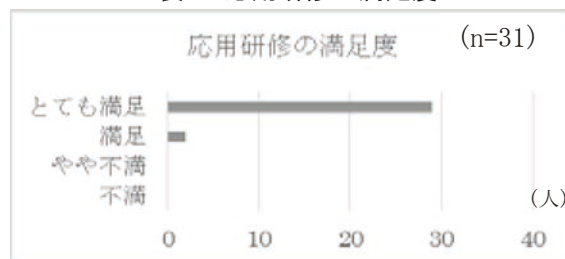
## VII 研修後の大学生の意識

### 平成27年度応用研修受講者アンケート

今後のキャリアサポ事業を担う, 今年度の応用研修受講者 (31人) のアンケート結果を以下にまとめる。

#### 1 あなたの応用研修受講の満足度は?

表1 応用研修の満足度



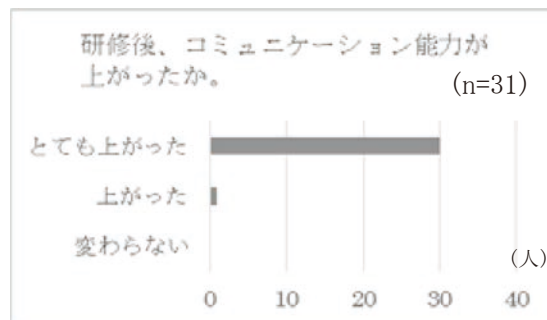
とても満足 29人, 満足 2人の結果となった。

#### 受講者からの意見

- ・ 基本研修, ワークショップ演習以来の研修参加で, とても刺激になった。
- ・ チーフを目指す「キャリアサポ」のリーダーを目指す自分にとって, 大変有意義だった。

#### 2 キャリサポ事業の研修を受講して, 自分のコミュニケーション能力は上がりましたか。

表2 コミュニケーション能力が上がったか



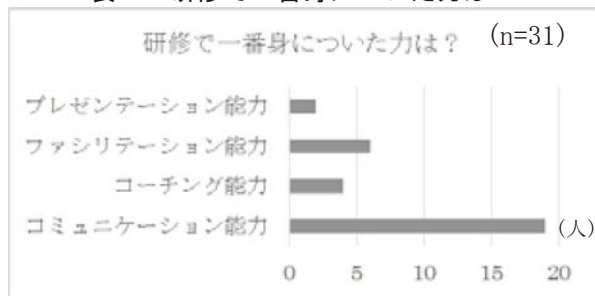
とても上がった 30人, 上がった 1人の結果となった。

#### 受講者からの意見

- ・ 研修や大学の先輩との交流が無ければ, 高校生の前に出ることができなかったかもしれません。
- ・ 基本研修で教えてもらったリフレーミングを活用して, 高校生と話をすることができた。
- ・ まだ, 高校生との会話で詰まってしまうことがあるので, もっと経験を積みたい。

### 3 キャリサポ事業の研修で身についた力は？

表3 研修で一番身についた力は？



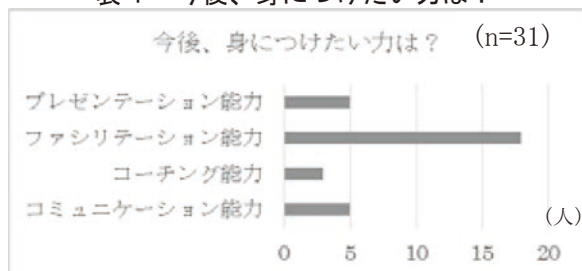
コミュニケーション能力 18 人、ファシリテーション能力 6 人、コーチング能力 4 人、プレゼンテーション能力 2 人の結果となった。

#### 受講者からの意見

- ・ コミュニケーション研修での演習から、人それぞれの価値観に違いがあることがわかりました。
- ・ ファシリテーション研修での、先輩方の「ファシリ」が素晴らしく、自分も早くあなりたいと思いました。
- ・ プレゼンテーションは難しそうだけど、今後、「語り」を作りたいと思いました。
- ・ コーチングの「引き出す」は難しいなと思います。つい、自分で話してしまいます。

### 4 キャリサポ事業で、今後、身につけたい力は？

表4 今後、身につけたい力は？



ファシリテーション能力 18 人、プレゼンテーション・コミュニケーション能力各 5 人、コーチング能力 3 人の結果となった。

#### 受講者からの意見

- ・ やっぱり「ファシリ」が上手にできるようになりたいです。先輩のファシリテーションのグループに入って体験する機会がほしいです。1年生の春に体験したときとは違う視点で見たいと思います。

- ・ コーチングをもっと勉強してみたいと思います。
- ・ 「語り」を作ります。社教の先生方、先輩方の指導を受けて、高校生のためにどんな「語り」ができるかやってみたいと思います。

### 5 その他自由意見

- ・ TKJ 法が楽しいです。サークル内だけでなく、他の大学の人ともたくさんできる機会があればと思います。
- ・ TKJ 法は時間が長くなる傾向にあると言われたので、自分がリーダーになったら、どうやったら、丁度いい感じになるか考えて、やってみたい。
- ・ RSB 法は手軽に意見交換できる良い手法だと思います。
- ・ RSB 法で、わざと困惑する意見を大学生が言うと、本気でびっくりしたような表情をする高校生がいます。こういう驚きが大事なのかもしれませんね。
- ・ 「キャリサポ」のテーマを立てるのが難しそうです。やっぱり、高校の願いやねらいなど、しっかり聞いてみたいと思います。
- ・ 私が来年、上級生として、応用研修でアドバイスできるのか不安です。
- ・ キャリサポの研修も、ワークショップもとても楽しいです。



図25 「ワークシート作成の意見交換」

## VIII 考察

- (1) 大学生の研修姿勢について  
応用研修に参加する大学生は非常に積極的で、目的意識が高く、研修内容を自分のものにしようという姿勢が感じられる。
- (2) 大学生が求める研修内容の配置について  
大学生はプレゼンテーション、コーチングについて、より機会を求め、体験や意見交換の場を欲している。
- (3) 研修の量と質について  
大学生の研修意欲から考えると、研修の時間を増やして、「キャリアサポ」の質の向上に結び付けたいのはもちろんであるが、事業の年間計画から考えると、単純に時間を増やしていくのは無理がある。限られた時間での研修内容の精選を行っていく必要がある。
- (4) 高校で実施する手法のバランスについて  
RSB法、TKJ法は大学生も楽しいと感じているようであり、今後も年間の「キャリアサポ」で一定の数を維持しながら行っていくなければならない。
- (5) プレゼンテーションの質の向上について  
完成したプレゼンテーション（語り）について、社会教育センター職員がアドバイスをする機会、大学生同士意見交換をする時間を確保して、プレゼンの質を高めていく必要がある。



図 26 「研修における上級生の語り」

- (6) これまでの3つの手法について  
これまで実践してきた3つの手法については、それぞれ精度を高め、引き続き実践を続けていく必要があるが、時間の短い簡易パターンの開発や新しい手法の試行も考慮していく必要がある。
- (7) 新たなワークショップ手法の検討について  
リーダー経験者の大学生と実験したマンダラートを参考とした方法は、より深く高校生が自分の目標をたて、そのために何ができるかを具体的に考えることができると予想されたが、高校生本人の夢や目標がある程度はっきりしている必要があることや、十分な思考時間を要するという意見が多く、実施するタイミングが難しいという意見にまとまった。

マンダラートを参考とした手法の進め方

- ア 中央の二重線の四角の中に、自分の夢や目標を記入する。
- イ その夢や目標の実現のために何ができるかを、周りの四角に記入していく。
- ウ 4つの角に書かれた内容が、新しい9マスの中心となり、それを実現していくために何ができるかをさらに具体的に記入していく。

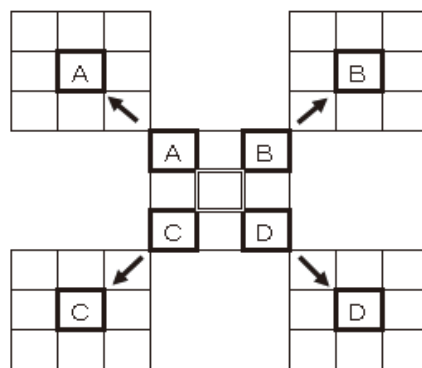


図 27 「マンダラートを参考とした手法のワークシート」

## IX おわりに

この8年間のキャリアサポ事業を支えてくれた大学生の熱意には、ただ感謝するばかりである。

大方の大学生は、自分の勉強、趣味、アルバイト等々に忙しい毎日を送っているが、その合間を縫い、数回にわたる研修を受け、高校の「キャリアサポ」に参加しているのである。中には、年間10回以上、また、ほぼ全ての高校に参加という学生もいる。

ここで、改めて注視したいことは、ただ「楽しい」という気持ちだけでは、継続した活動ができないことである。高校生と向き合ったときに、自分が自信をもって伝えられることは何か、自分も悩んでいたことは何か、自分がどうやって乗り越えたか等をはっきりと内面に持っていることが当然であり、それを伝える、または、高校生の背中をそっと押すためのスキルを持たなければいけないということである。

このキャリアサポ事業に集う大学生たちは、「楽しい」の先にある、高校生に伝える「難しさ」を経験し、自分たちも常に学習し、高校生とともに成長することの「喜び」を知った学生達である。この本当の「楽しい」を感じ取った学生たちの集団が、キャリアサポ事業の学生たちと言える。

現在、大学の垣根を超えた活動、先輩から後輩への指導体制、各大学のサークル活動の充実、高校生の時にキャリアサポを受けてキャリアサポに加入してくる新入生の存在等、恵まれた環境に置かれつつある今、県教育委員会としては、大学生たちとともに大学生にニーズのあるファシリテーション研修の充実を始めとして研修内容の精選に努め、各手法の完成度を高めたり、高校生の気持ちを引き出すコミュニケーション能力の伸長を図ったりするなど、「キャリアサポ」の質の向上を図っていくことが求められている。

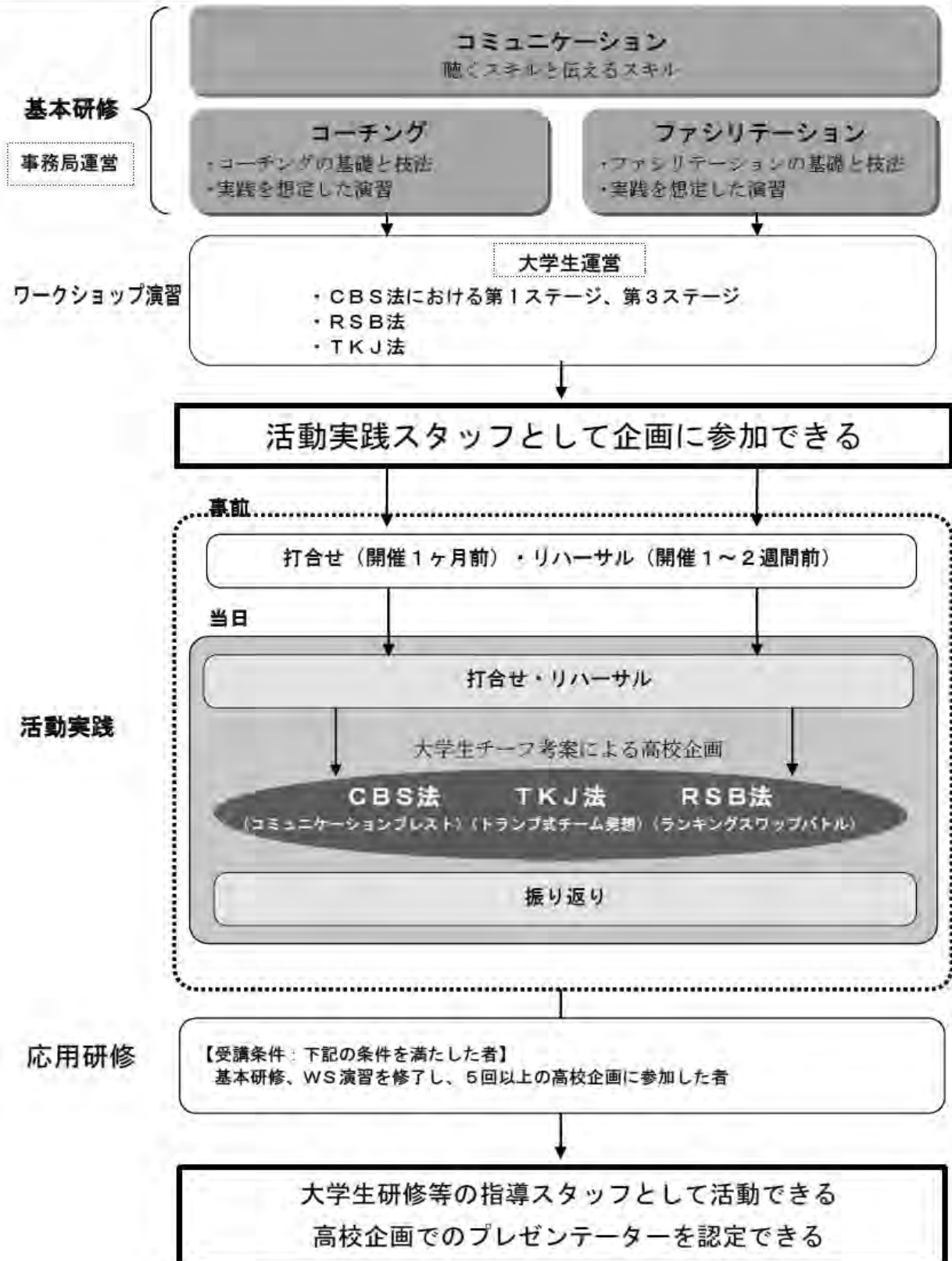


図 28「キャリアサポ事業を支える大学生たち

### <引用・参考文献>

- ・今泉浩晃 著「超メモ学入門 マンダラートの技法—ものを「観」ることから創造が始まる」
- ・小林 茂 著「組織蘇生学」

# 研修体系と活動実践までの流れ



**テーマの提示と  
意見の書き込み**



リーダーから提示されたテーマについて、各自カードに意見を書く。

**第1サイクル**

**第1ステップ  
カードの配布**

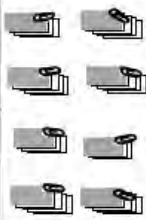
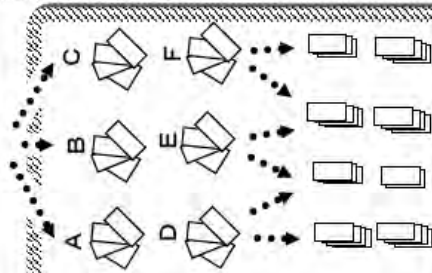
**第2ステップ  
グルーピング**

**第3ステップ  
表札づくり**

※カードの東の内容を代表する「表札」を作成する。

**第4ステップ  
吟味と確定**

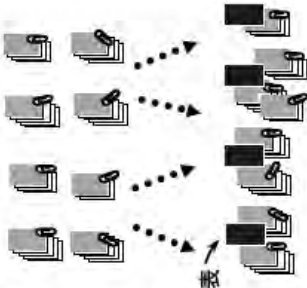
※もつとよい表札ができないか討議。メンバー全員の意見が一致したら確定。



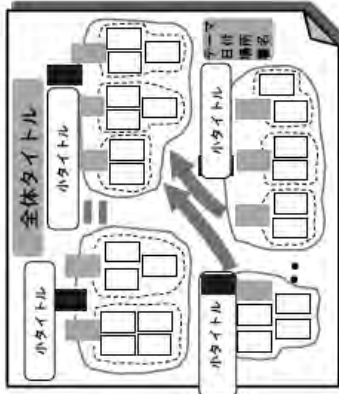
**TKJ法のイメージ**

**第2サイクル～**

- (1) 表札のついたカードの東を1枚のカードとみなし、第1サイクルと同様に、第1ステップ～第4ステップを繰り返す。
- (2) カードの山と山の重ね合わせがこれ以上不可能だといふところで打ち切る。(ふつうは山が4つぐらい)



**まとめ**



**全体で発表**

チーム毎に結果を発表する。

★TKJ法とは…

「チーム発想」のツールの一つ。トランプのような進行スタイルから「トランプ式チーム発想法」とも呼ばれ、ゲーム感覚で楽しみながら参加できる。様々な意見が整理・構造化され、隠れた課題が発見されたり、取り組みの方向性が浮かび上がってきたりする。

今後、アクティブ・ラーニングにおける協働学習等に効果を発揮する可能性を秘めている。



## RSB法のイメージ

### 1 SB (スワップバトル) スタート <第1サイクル>

- (1) 参加者でテーマに合ったカードを作成し配置します。
- (2) ファシリテーターに指名された人は、グループの仮ランキングと自分の考えるランキングと異なるカードの順番を変えます。その際に必ず「スワップ」と言ってからカードを交換してください。スワップの範囲は**最大3**。移動限度を超えることはNG！
- (3) そのカードの変更に異議がある人は「異議あり！」と言って、異議の理由を述べてください。(この異議が次の人への参考意見になります) 「異議あり」ということに対しての「異議」があってもかまいません。
- (4) この方式でグループ員全てに回ったら、第1サイクル終了です。



### 2 SB (スワップバトル) <第2サイクル>

- (1) カードを交換する2周目に入ります。第1サイクルの要領で進めてください。
- (2) 第2サイクルでのスワップの範囲は、今度は**最大2**です。範囲限度を超えることになりNG！
- (3) 第2サイクルでは、まだ「パス」は認めません。自分の考えるランキングに近づけるように進めます。
- (4) グループで2周目のカード交換が終了したら、第2サイクル終了です。

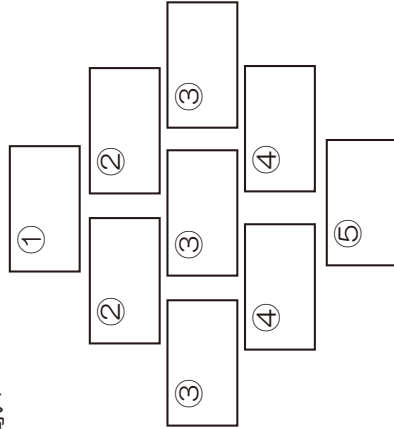
### ☆RSB法とは…

「Ranking・swap・battle」ランキング・スワップ・バトルの略。ダイヤモンドランキングを用い、テーマについて、カードを交換しながら、グループ内で話し合いを深めていく手法。

ランキングという手法は、参加型学習の場によく使われる手法で、このダイヤモンドランキングは選択肢が決まっいて、なおかつ同列に並ぶ部分がいくつもあるもので、時間的にも長くなりすぎず手軽にできる。

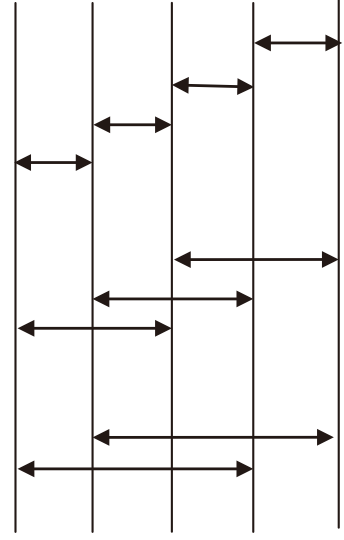
ランク付けして1番を決めることが目的ではなく、ランキングするうちに自分の基準と違う見方を他の人から示されて、そこにいろいろな気付きが生まれることが大切である。

参加型学習の醍醐味である参加者同士の相互作用が実感できる手法である。



### スワップバトルでのカード移動制限

第1サイクル 第2サイクル 第3サイクル



### 3 SB (スワップバトル) <第3サイクル>

- (1) カードを交換する3周目に入ります。
- (2) 第3サイクルでのスワップの範囲は、最後は**最大1**です。グループ員の意見を尊重しながら、徐々にグループでの合意に近づけることができます。
- (3) 第3サイクルでは、「パス」を認めます。
- (4) もしも、第3サイクルを終了して、時間があまる場合はグループでこのランキングでよいかの検討をします。

# 家庭教育支援コンテンツの状況と活用事例について

～これまでの映像事業の沿革と活用について～

教育活動支援課 社会教育主事 平山 健一

## 要 旨

「家庭教育支援コンテンツ制作事業」は、平成24年度に開始され、家庭教育の重要性を訴えるとともに、子育てに関わる人々の不安や悩みを軽減することを目的とした学習教材（動画）を制作し、学習機会と情報の提供を行う事業である。本事業は、核家族化の進行や地域のコミュニティ機能の低下、それに伴う地域の教育力の低下等により、子育てや家庭教育に対して不安や悩みを抱える県民に対し、正しい情報を普及させるため、学習教材（動画）を制作し、配信・配付を行うとともに、各種の講座、研修会等で活用することを目指している。この「家庭教育支援コンテンツ制作事業」は、平成元年の青森県総合社会教育センター開所時より取り組んできた家庭教育に関する事業の流れを汲むものであり、途中事業名や媒体を変更しながらも、現在まで続く事業である。

本報告は、ここに至るまでの事業の沿革と「家庭教育支援コンテンツ制作事業」における現状について整理するとともに、今後の活用について考察したものである。

キーワード：家庭教育支援，家庭教育支援者，コンテンツ，動画

## 目 次

I	はじめに	27
II	家庭教育事業の沿革	27
III	家庭教育支援コンテンツ制作事業の概要	31
IV	今後の活用についての考察	49
V	おわりに	51

## I はじめに

青森県総合社会教育センター（以下県社教センターという）では、平成元年の開所当時の「すこやか家庭教育相談事業」から現在の「家庭教育支援事業」に至るまで、親子が共に学び、育ち合う家庭教育を支援するとともに、地域で活躍する家庭教育支援者の育成に取り組んできた。

平成18年12月に教育基本法が改正され、「第二章 教育の実施に関する基本」において、「家庭教育」が独立規定として新設された。この規定では、以下のように、保護者が子どもの教育について第一義的責任を有すること、及び、国や地方公共団体が「家庭教育支援」に努めるべきこととされている。

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

さらに、平成20年7月には、第1期教育振興基本計画が閣議決定され、「特に重点的に取り組むべき事項」の一つとして、「地域全体で子どもたちをはぐくむ仕組みづくり」のなかに「家庭教育支援」が位置づけられた。これは、子育てに関する学習機会や情報の提供、相談などの「家庭教育」に関する総合的な取り組みを関係機関が連携して行えるよう促すものである。またこうした流れは、平成25年6月に閣議決定された第2期教育振興基本計画でも引き継がれており、教育行政の基本的方向性の一つである「絆（きずな）づくりと活力あるコミュニティの形成」において、「豊かなつながりの中での家庭教育支援」が基本施策として位置づけられている。

「家庭教育支援コンテンツ制作事業」は、これまでの事業の成果と課題を踏まえながら、平成24年度から実施している。

これまで県社教センターで実施してきた事業の流れを確認しながら、本事業の状況と活用事例、今後の活用について考え、まとめることと

した。

## II 家庭教育事業の沿革

### 1 すこやか家庭教育相談事業

平成元年度～3年度

県教育委員会では昭和49年以降15年にわたり「家庭教育幼児期相談事業」を実施してきた。この事業を踏まえ、新たな構想のもとにスタートさせたのが「すこやか家庭教育相談事業」である。この事業は

- ・パンフレット等の作成、配布
- ・巡回による相談
- ・電話による相談
- ・テレビ放送による相談
- ・学習教材ビデオの作成
- ・子育てセミナー等による相談
- ・相談員の養成・研修

という内容となっていた。

「テレビ放送による相談」では、番組の制作・放送について、民間放送事業者（青森放送）に委託し、制作協議会において番組の構成・内容等について協議のうえ、15分番組を26本制作した。番組タイトルは「すこやかひろば」とし、放送時期は7月から12月の土曜日7:45～8:00で、再放送と併せて52回放送した。

「学習教材ビデオの作成」は、放送された番組をVHSビデオテープにダビングし、「すこやかひろば」利用のてびきとともに、各地域視聴覚ライブラリー、各市町村教育委員会、各市町村の公民館及び希望する幼稚園・保育所へ送付し、乳幼児をもつ親等の家庭教育学級等での番組活用を促した。



図1 平成元年ビデオ教材「すこやかひろば」利用のてびき(表紙)

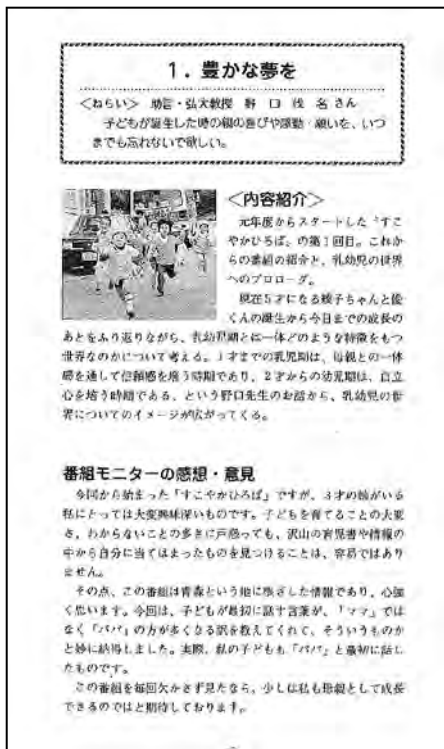


図2 平成元年ビデオ教材「すこやかひろば」内容(26作品を1冊の冊子にして制作)

## 2 家庭教育充実事業

平成4年度～8年度

事業が変わり、それまでの「テレビ放送による相談」から「テレビ放送」に名称が変更となった。事業内容に関しては平成3年度までのものと大きな変更はないが、放送回数が、平成4年度は26回、再放送26回の年間52回だったものが、平成5年度～8年度は26回、再放送は24回の年間50回となった。

乳幼児を持つお父さん・お母さんのための番組です			
RAB-TV すこやかひろば			
金曜提供 青森県総合社会教育センター		青森放送 青森県庁(113-1) TEL 0177-39-1241	
土曜日(本放送)	9:45-10:00	日曜日(再放送)	19:35-19:50
制作 青森放送			
目	タイトル	ね	放送日
1	すこやか ね	健康でたくましく育ってほしいというのは親の共通した願い。育ってほしいというのほかに、我が家の子育てを考える。	7/4 7/6
2	授乳と離乳	母乳は乳児の栄養源になるとともに、母子感情を育む重要な役割を担っている。母乳の量や質、離乳の進捗を考える。	7/11 7/13
3	子供の睡眠	赤ちゃん時代は体づくりの大切な時期。変更にも関わらず、赤ちゃんの睡眠リズムを整えるための工夫を考える。	7/18 7/20
4	離乳時のしつけ	おしっこやうんちなどは自然に身につくこと。大切なのは、離乳時のしつけと、おむつについて考える。	7/25 7/27
5	子どもの7歳時	アトピーなど子どものアレルギーが原因で、アレルギーと上手に付き合う方法を考える。	8/1 8/3
6	ごんげを育てる	ことばは、人の関係の中で発達し、知能や感情、性格にも影響を及ぼす。ごんげを育てることで、親子の絆を深める。	8/8 8/10
7	けがはあせりたくないけれど	子どもにけがはつきものであるが、けがをさせない心配りと、けがをした時の対応方法について考える。	8/15 8/17
8	くせ	むくもくせといわれるくせは、情緒不安定で着られる場合も多い。困りごと、クセなどくせの克服法と対処法を考える。	8/22 8/24
9	良質な食事を摂る時	幼稚園・保育園は社会性を養う大切な場であるが、食生活も重要な役割を担っている。食生活を改善するための対処法を考える。	8/29 8/31
10	スキンシップ	乳児は特に母親とのスキンシップが、子どもの情緒の安定や発達に重要な役割を担っている。	9/5 9/7
11	文字と数	赤ちゃんのしきりから、子どもに引き付けられるように、文字と数を教える方法を考える。	9/12 9/14
12	マイカー教習	車の送り迎えは危険であるが、送るにせざるを得ない場合もある。危険の回避と交通安全について考える。	9/19 9/21
13	反抗と自立	自我が芽生えてくると出現してくる反抗。反抗は自立のサインでもある。自立への過程と親の接し方を考える。	9/26 9/28

図3 平成4年放送「すこやかひろば」放送作品タイトル(一部)



図4 平成8年「すこやかひろば」ビデオ教材のチラシ



地球市民」という番組を制作した。家庭教育は10回シリーズの中の第2回「みんなで子育て支援」という番組であった。

平成15年度、16年度は家庭教育に関する作品はなく、平成17年度は、「家庭教育及び青少年教育に関する総合的な学習機会をテレビ番組の制作・放送を通して広く県民に提供することにより、家庭教育支援及び青少年教育支援の充実を図るとともに、地域の子どもは地域で育もうとする機運の醸成を図る」ことを趣旨として、民間放送事業者（青森朝日放送）に委託し、番組タイトル「コドモと親とキモチと気持ち～せつなさも愛しさも～」という番組を制作した。

この番組は10回シリーズで、家庭教育は主に次の5回あった。

第1回「国際比較で子育てを考えよう」

第2回「子育てって大変だけど楽しい！」

第3回「応援します！働くお母さん、お父さん」

第4回「1人で悩まないで、きっと仲間が見つかる。」

第5回「家族のぎずな。愛する人はいますか？」

また、10回シリーズの各回には「お悩み相談」や「子育て情報局」といったコーナーがあり、そういう点では、すべての回が家庭教育に関する番組であったといえる。

平成18年度は、「青少年教育を中心とした県内の社会教育に関する総合的な学習機会を、テレビ番組の制作・放送を通して広く県民に提供することにより、県民の学習と社会参加の推進を図る」ことを趣旨として、民間放送事業者（青森テレビ）に委託し、番組タイトル「みらい～親として大人として子どもたちのために～」という番組を制作した。10回シリーズで、家庭教育は、第1回「朝ごはんの力～早寝早起き朝ごはん～」、第9回「子どもとの上手なコミュニケーションの取り方～自律心と社会力の育成に向けて～」、第10回「学ぶことと働くこととの繋がり方、繋ぎ方」という番組であった。

番組構成が30分となり、青森テレビ、青森朝日放送が番組を制作するなど、平成13年度までとは違った切り口での番組制作となった。そして、この放送を最後に家庭教育に関するテレビ番組が終了となった。

## 6 すこやか子育てあおもりネット事業

平成17年度～19年度

この事業は、子育てについて学ぶ余裕のない保護者、子育てに悩みを抱える保護者の子育てのサポートをするため、携帯電話やパソコンを活用して、気軽に子育てに関する悩みや相談に応じ、情報や学習機会を提供するなど、全ての親に対するきめ細やかな家庭教育支援を目的として、平成17年9月から始まった。今までの「テレビ放送」とは異なり、主にパソコンを使うことを前提とした事業となり、内容も

- ・パソコンを活用した子育てに関する相談「メールで相談」

- ・携帯電話やパソコンを活用した子育てに関する情報の提供「子育て情報ホームページ」

- ・パソコンを活用した子育てに関する学習機会の提供「子育て学習」

となった。特に「子育て学習」では、パソコンを用いて自宅で学習できるように、3年間で、子育てワンポイントアドバイス動画コンテンツを10本制作した。

あわせて、当センターで開講した家庭教育に関わる公開講座も動画として配信した。

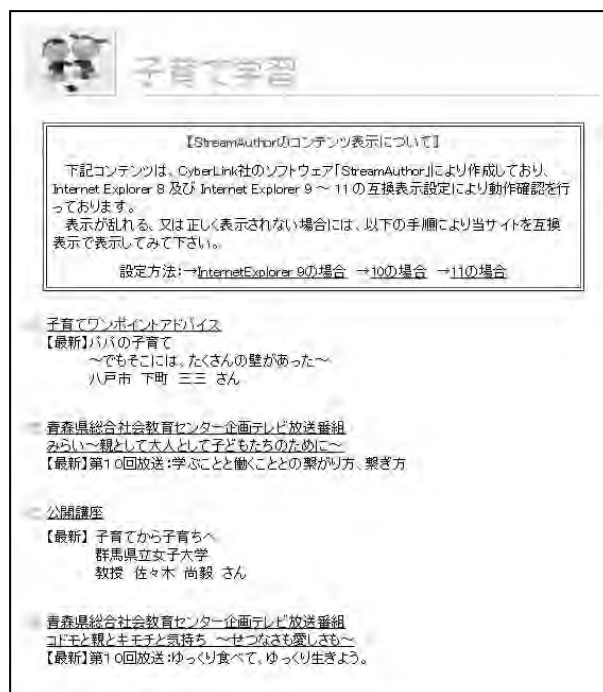


図6 「あおもり子育てネット」のホームページ。こちらから子育てワンポイントアドバイスの動画コンテンツを視聴できる。

### Ⅲ 家庭教育支援コンテンツ制作事業

#### 業の概要

##### 1 事業概要

県教育委員会が行う家庭教育支援のための事業は、支援者の育成、ホームページでの情報配信、家庭教育相談等多様な形態で展開されていた。これらの事業は県民が自主的に参加することを前提としており、様々な理由で能動的に情報に触れる機会の少ない県民に対しては、有効に支援出来ているとは言えない。このような県民に対し、県教育委員会から積極的に情報を提供し、県教育委員会の実施する事業への「入口」となって県教育委員会と県民を結びつける方策が必要である。

また、情報社会の進展により誰でも情報を簡単に発信できるようになったため、適切な情報が得にくくなり、然るべき機関に裏付けされた正しい情報が求められている。

さらに、学習手段として拡充されてきた、eラーニングなどホームページ上での情報配信や各講座などは、体系的な知識の習得、体験的な学習には大変効果がある。今後もその整備・充実が不可欠であるが、パソコンや携帯情報端末での動画視聴など、情報技術の進展とその普及に応じて、短時間の動画コンテンツの拡充が必要である。

これらの現状や課題を踏まえ、家庭教育に関する情報および県教育委員会の実施する各事業の情報を提供し子育てへの不安、悩みを払拭するため、専門家等により学術的に裏打ちされた、短時間で明確な情報を伝える動画コンテンツを作成し、ホームページ等で配信するとともに、より具体的に、体系的に子育てについて理解してもらうため、支援者を育成する講座や研修等で活用することを目的として、平成24年度から「家庭教育支援コンテンツ制作事業」が始まった。

主な事業内容は以下の通りである。

##### ・企画委員会の設置

学識経験者や保育関係者等10名からなる企画委員会を設置し、年4回の企画委員会において、家庭教育支援コンテンツ、家庭教育支援教材の内容等を含めた「家庭教育支援コンテンツ制作要項」の審議・策定、事業成果の評価を行う。

##### ・家庭教育支援コンテンツの制作

家庭教育に関する諸問題解決のヒントや、県内関連事業を紹介する動画コンテンツ（再生時間5分）を、10本（内6本委託制作、4本県社教センター自主制作）制作する。これらは県社教センターホームページ上で配信し、多様な視聴形態に対応する。

##### ・家庭教育支援啓発教材の制作

家庭教育および地域ぐるみで子育てすることの重要性を訴える家庭教育支援啓発教材（再生時間15分）を2本（委託制作）制作する。家庭教育支援コンテンツと合わせてDVD教材化し、県内関係機関へ配付し、県教育委員会及び各市町村が実施する家庭教育支援に関する各事業で活用し普及をはかる。

##### ・ポスター・チラシの作成

家庭教育関連事業を紹介するポスターを制作・配付する。

子どもたちの成長を  
あおもり子育てネットが応援します!

家庭教育支援番組

県内のさまざまな家庭の  
子育てを紹介します。

- 家庭教育支援動画コンテンツ
- ①母と三姉妹(青森市)
- ②りんご農家の家庭(弘前市)
- ③両親と6人兄妹(東北町)
- ④両親と3人兄妹(東通村)
- ⑤両親と3人兄弟(鶴田町)
- ⑥酪農一家5人家族(三戸町)
- ⑦～⑩ 県内の支援団体の紹介

- 家庭教育支援啓発教材
- ①まなごしあい
- ②つながりあい

すこやかほっとライン

子育ての不安や悩みの  
相談をお聞きます。

- 電話相談  
017-739-0101  
毎週火・木(年末年始・祝日を除く)  
13:00～16:00
- メール相談 <http://kosodate-a.net>  
携帯電話からは <http://kosodate-a.net/i>

※この他にも家庭教育支援者の育成も行っています。

お気軽にお問い合わせ下さい  
Tel. 017-739-1270 Fax. 017-739-1279  
URL <http://kosodate-a.net>

あおもり子育てネット 検索

青森県総合社会教育センター

図7 平成24年度作成したチラシ

平成26年度までの制作した作品タイトルと内容は次の通りである。

表 1 平成24年度制作作品

<家庭教育支援コンテンツ>

作品タイトル	内容
母と三姉妹 (青森市)	「日常的に返事や挨拶を徹底している」と語る母親。母と3人の娘が生活し、子育てを「親のまなざし」「子のまなざし」から紹介している。
りんご農家の家庭 (弘前市)	「夫婦で、お互いに負担を軽減する努力をモットーにしている」と語る父親。両親と3人兄妹が生活し、子育てを「親のまなざし」「子のまなざし」から紹介している。
両親と6人兄妹 (東北町)	「子どもが多くて、幅広い年代の親御さんと話す機会が持てて、子どもの成長過程と一緒に親も成長できたのが良かった」と語る母親。両親と6人兄妹が生活し、子育てを「親のまなざし」「子のまなざし」から紹介している。
両親と3人兄妹 (東通村)	「子どもの成長がすべて嬉しい」と語る父親。両親と3人兄妹が生活し、子育てを「親のまなざし」「子のまなざし」そして「祖父母のまなざし」から紹介している。
両親と3人兄弟 (鶴田町)	「叱る時は、言葉で説明して解らせる。子どもたちが理解できたら必要以上に叱らない。」と語る父親。両親と3人兄弟が生活し、子育てを「親のまなざし」「子のまなざし」から紹介している。
酪農一家5人家族 (三戸町)	「やりたいことを自由にやらせて、体験から学ぶようにしている。」と語る母親。両親と3人兄弟が生活し、子育てを「親のまなざし」「子のまなざし」から紹介している。
子どもたちからのプレゼント (保育園編)	県内には地域の子育て支援の一端を担う保育園が多数ある。その子育てを支援する機関の一つ八戸市にある中居林保育園での活動を紹介している。

子どもたちの大切な居場所づくり (NPO編)	十和田NPO子どもセンター「ハピたの」は、地域で子どもを育てようという思いで様々な事業を展開している。ここではこの活動の様子を紹介している。
人と人をつなぎ、支える達人 (連携編)	鱒ヶ沢子育てサポートセンターは、学校や地域、行政など様々な機関と連携して町ぐるみで子育てを支えている。ここではこの活動の様子を紹介している。
若者による子育て支援 (大学生編)	弘前大学深作研究所では、子どもたちの育ちを支援するサークル「らぶチル」が活動している。大学生ならではの子どもたちとの関わり方について紹介している。

<家庭教育啓発教材>

作品タイトル	内容
まなざしあい	家庭教育とは子どもが健やかに育つように導く家庭内の営みである。子どもにとって、健康で心の豊かな人に育つように、家庭や地域社会がどの様に導いていくのかがポイントになっている。そこで重要なキーワードは「まなざしあい」である。それが私たち子どもを持つ親達や地域社会にもってもらいたい一つの鍵となる。事例を交えて紹介している。
つながりあい	家庭教育とは甘えたり、見守られることなどを実感しながら、健やかに育む営みである。子どもにとって、健康で心の豊かな人に育つように、家庭や地域社会が育んでいくことがポイントになってくる。そこで重要なキーワードは「つながりあい」である。それが私たち子どもを持つ親達や地域社会にもってもらいたい一つの鍵となる。事例を交えて紹介している。

表2 平成25年度制作作品

<家庭教育支援コンテンツ>

作品タイトル	内容
40代の子育ては大変?	41才で2人目を出産した女性。年齢的なことや体力という悩みはあるが、今できる子育てを積極的に頑張っている姿を紹介している。
農業家族の支えあい	農業を営む3世代家族。子どもたちと過ごす時間は少ないが、働く両親、祖父母の姿を見て成長している子どもたちの姿を紹介している。
がんばれイクメン	育児休暇を取得した父親。制度を利用する時に課題はあったものの、夫婦互いに協力して子育てをすることの楽しさも。企業側の視点も交えて紹介している。
子どもと向き合うシングルマザー	シングルマザーとなり、子どもとの絆がより深まったという母親。子どもと対話をしながら、仕事と育児をしている姿を紹介している。
共に働き、共に子育て	「夫婦で互いに協力し、家事や育児をすることで、子どもと触れ合う時間が増え、絆が深まった」と話す母親。そんな夫婦共働きの一家を紹介している。
発達障害と向き合って	発達障害のお子さんをもつ母親。家庭や地域みんなで息子をサポートしている様子を紹介している。
親子で感動できる空間 (美術館編)	子どもたちから美術館や芸術に親しみ、豊かな感性や創造力を育み、家庭ではできない活動を通して親子の絆がさらに深まる活動を紹介している。
子どもの力を引出す大切な時間 (乳幼児編)	NPO法人希望の友勇気園・希望園では、その道のプロから本物を教わることで、子ども一人一人に未来に繋がる力を身につけさせています。その取組を紹介している。

放課後の子どもたちを支える (放課後の居場所編)	「学校が終わっても安全安心な場所で精一杯遊んで欲しい」、「共働きで子どもを預かって欲しい」など保護者や地域の思いに応え、子ども達の放課後を支える人達を紹介している。
家庭教育支援者の育成 (県教育委員会編)	県教育委員会では、学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財を育成するために、家庭教育支援の充実を図っている。その取組の一部を紹介している。

<家庭教育啓発教材>

作品タイトル	内容
郷土の芸能で育む心と絆	各地で育まれている郷土芸能。そこに携わる人は、芸能を通し様々なことを受け継いでいる。ここでは今別町「荒馬」を通して育まれている「心と絆」について紹介している。
心を育む～あおもり性教育の現状～	性は親が避けて通りたい話題の一つである。だからこそどう接すればと悩んでいる方も多いのではないのでしょうか。ここでは様々な立場からその方法について紹介している。

表3 平成26年度制作作品

<家庭教育支援コンテンツ>

作品タイトル	内容
いろいろな情報の中での子育て	初めての子育てでわからないことだらけのある夫婦は、それを解決するためネットで調べがちなことである。ネットの情報に不安を抱えながら、なるべくそれだけに頼らないように、子育てに奮闘している。
スマホ我が家のルール	男手ひとつで、大学生と高校生の息子を育てるシングルファーザー。この一家では「食事の際にはスマホを使わない」などのルールを決めています。家族の会話が少ないのが悩みである。
食べ物から学ぶ	娘さんは地産野菜の良さを学ぶ十和田キッズソムリエに参加して2年目である。野菜が苦手ですが、体験を通して、野菜を食べる意味や、地元食材の大切さを学んでいる。
思春期、どう接してる	思春期の子どもを持つ家庭。部活や勉強で忙しく、一緒にいる時間も少なくなった。勉強のことや、進路のこと、そして恋のことなど、心配しながらも、接し方に戸惑う家族を紹介している。
ハンディキャップをみんなで支える	生まれつき気管が細い「気管狭窄」と「肺動脈スリング」という病気をもつ娘さん。彼女の両親の想いや友達、先生など周囲の関わりなどを紹介している。
頼り、頼られ互いの思い	夫婦共働きで日中子ども達を世話するのは祖父母の役目。2世帯住宅で両親と同居し、可愛い孫の世話を楽んでいる反面、息子夫婦の子育てに思うこともある。3世代同居から見えてくるものとは。

地域とつながるリサイクル活動	七戸中学校資源リサイクル活動は、生徒がリヤカーで町内の各家庭を回り古紙等を回収する活動で、今年42回目を迎える伝統行事である。この活動を通して生徒が、保護者、地域の方々に見守られながら成長している。
ステキな大人とこんにちは～地域交流会を通して～	泉川小学校で開催される地域交流会は、全校児童が自分の家の近所に住んでいる保護者の方を講師に迎えて、様々な分野を学習する活動である。この会を通して、地域の方々と児童が親睦を深め、感謝の気持ちをもつことができるよう成長している。
地域の親子を巻き込んだ子どもまつり	今年で23回目を迎える「かでで」という地域主催のお祭りにおいて、保護者、地域の人達が、子どもたち自ら企画、商品製作、販売をする「お店」をサポートし、その成長を支援している。
地域で活躍し続ける家庭教育支援者	絆でつながる家庭教育支援セミナー受講者が、講座での学習経験を活かし、新たな家庭教育支援を行っている様子や参加している保護者、子どもたちの変化の様子を紹介している。

<家庭教育支援啓発教材>

作品タイトル	内容
直輝くんを家族・地域・仲間を支える	直輝くんは発達障害で、心の整理がつかなくなると怒り出したり、突発的な行動をおこしたりしてしまう。両親は悩みながらも、地域と関わりながら、直輝くんに合わせて子育てを続けている。
ふるさとを誇れる子どもに	地域の魅力を子どもたちに伝える「元気隊キッズ」が大鰐の有志で行われている。その活動に参加しているある少女を追いながら、彼女と家族のふるさとに対する意識の変化を紹介している。

## 2 コンテンツ活用のアンケート結果

平成26年度末にDVDを送付した幼稚園、保育園(所)、小学校、中学校、特別支援学校、子育て支援団体の長、各市町村教育委員会担当者対象に実施したアンケート結果についてである。

全部で51の団体から回答をいただいた

### 質問1 所属について

表4 質問1回答

所 属	アンケート提出数
幼稚園・保育園(所)	13
小学校	20
中学校	10
特別支援学校	3
子育て支援団体	2
教育委員会	3
合計	51

### 質問2 家庭教育支援コンテンツを今までにご覧になったことはありますか

表5 質問2回答

所 属	見たことがある	見たことがない
幼稚園・保育園(所)	5	8
小学校	5	15
中学校	1	9
特別支援学校	0	3
子育て支援団体	0	2
教育委員会	1	2
合計	12	39

幼稚園・保育園、小学校での過去に視聴している割合が高い。また、見たことがある12団体のうち、11団体が配布されたDVDで視聴しているとの回答があった。

### 質問3 コンテンツ作品を視聴してみて、参考になる作品はありましたか。ただし、複数回答可とする。

(グラフの縦軸は作品タイトル(作品タイトルは下記参照)横軸は人数合計を示す)

表6 作品タイトル

1	いろいろな情報の中での子育て
2	スマホ我が家のルール
3	食べ物から学ぶ
4	思春期、どう接してる
5	ハンディキャップをみんなで支える

6	頼り、頼られ互いの思い
7	地域とつながるリサイクル活動
8	ステキな大人とこんにちは ～地域交流会を通して～
9	地域の親子を巻き込んだ子どもまつり
10	地域で活躍し続ける家庭教育支援者
11	直輝くんを家族・地域・仲間で支える
12	ふるさとを誇れる子どもに

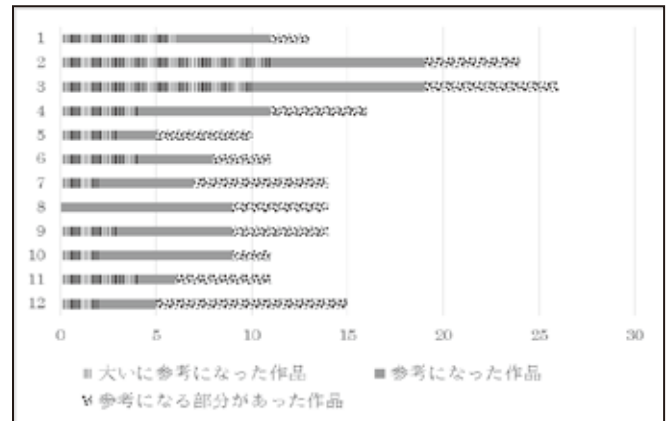


図8 すべての所属

全体としては、「2 スマホ我が家のルール」「3 食べ物から学ぶ」という今日的な課題に対する作品を選ぶ所属が多かった。

ここで、回答数が多かった所属に関して、個別に見てみることにする。

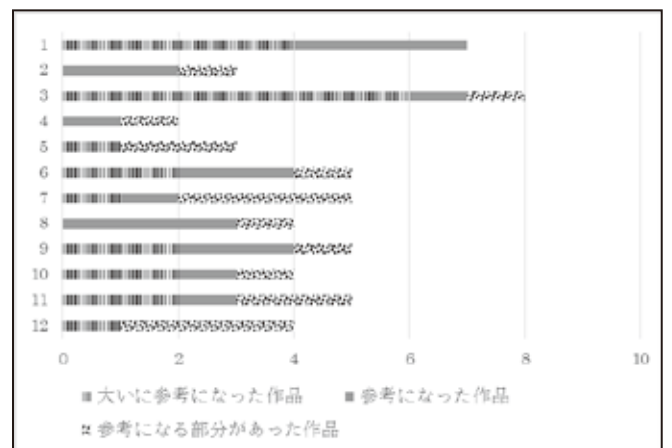


図9 幼稚園・保育園(所)

「子育て」、「食べ物」といった仕事に関係のある作品に対する興味関心が高い結果となった。

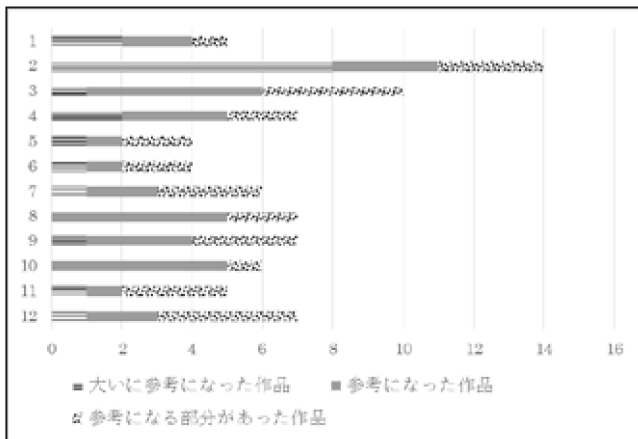


図10 小学校

全体と同じ傾向で、「スマホ」、「食べ物」に関する作品に対する興味関心が高い結果となった。

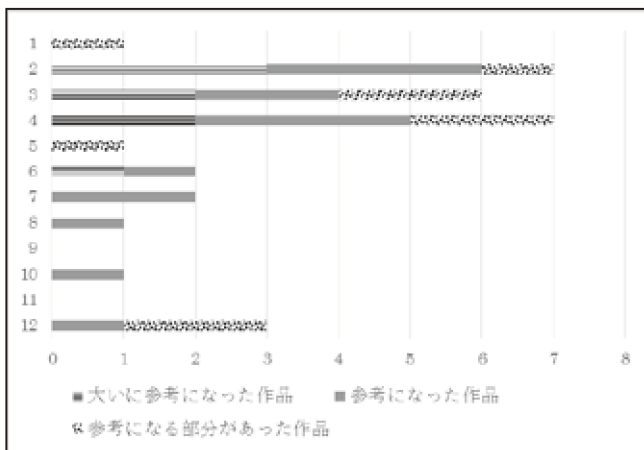


図11 中学校

「スマホ」、「食べ物」、「思春期」といった現在の課題等に関係する分野の作品に対する興味関心が高い結果となった。

いずれの所属に関しても、関係のある分野の作品に対して興味関心が高い傾向にあり、所属によっては参考にならない作品もあることがわかった。

質問4 今まで家庭教育支援コンテンツ作品を職員研修会等で使用したことがありますか。

「使用したことがある」と回答した団体が2団体、「幼稚園・保育園（所）」のみであった。「使用したことがない」と回答した団体が46団体あり、未回答の団体が3団体であった。

質問5 今後研修会等で使用してみたいと思いますか。

表7 質問5回答

	団体数
是非使用してみたい	1
使用してみたい	3
機会があれば使用してみたい	45
使用しない	2

「使用してみたい」と回答した団体は49団体となり、「使用しない」とした回答の中で「使用しにくい」と書き直している団体があるので、ほぼすべての団体に研修会等での使用に関するニーズがあることがわかる。

質問6 今後どのような作品を見てみたいですか。自由にご記入ください。

回答（一部抜粋）

- ・障害児の進路選択の参考となるような作品、障害児の特性や環境などについて説明した作品など、当事者や保護者が抱える負担を軽減できるような作品を見てみたい。
- ・ネットトラブルについて。
- ・不登校を克服した過程や、中学生の友達とのつきあい方など、地元密着の題材を見たい。
- ・3才までの子育ての悩み（ミルクの与え方、離乳、排せつ（トイレトレーニング）、睡眠等）。
- ・家庭での不安や悩みを気軽に相談できるように「すこやかほっとライン」への連絡の方法、対処の方法等を再現VTR等であれば良い。
- ・「2 スマホ我が家のルール」の内容の最新情報。

記述内容の傾向として、課題解決に向けての手立てとなるような内容、いわゆる「How to」ものに関するニーズが高い。また、学習障害や発達障害、ネットトラブルなど今日的な課題に対する要求もある。

### 3 活用事例

家庭教育支援コンテンツ制作事業の一つに「DVD教材として関係機関に配付し、各種研修会・会議等での活用を促す。」としている。ここでは、平成26年度、27年度に活用した事例を紹介する。

#### (1) 保育園での活用事例

平成26年9月1日月曜日、青森市内にある「幼保連携型認定こども園 すぎのこ幼稚園」において保護者会が開催された。会の中で平成24年度制作した「子どもたちからのプレゼント（保育園編）」を放映した。参加者が100名近くあったが、講義等をする時間がなかったため、視聴のみでの学習となった。以下、保護者及び保育士へのアンケート結果である。

質問1 家庭教育支援コンテンツを今までご覧になったことはありますか。

表8 質問1回答

	見たことがある	見たことがない
保護者	0	78
保育士	0	14

残念ながら全員見たことがないという結果であった。

質問2 今回視聴した作品はあなたの子育てに参考になりましたか。（保護者のみ）

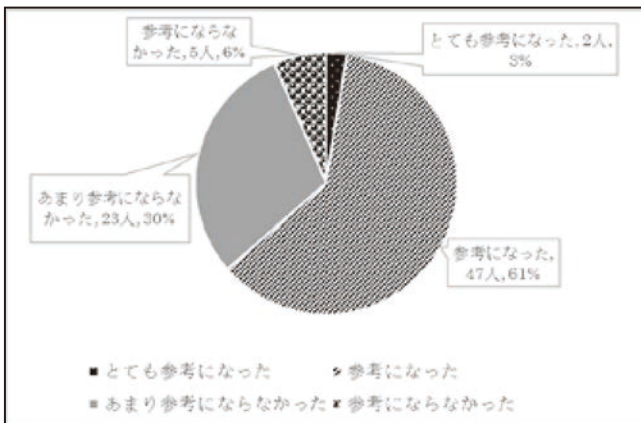


図12 保護者

64%の保護者が「参考になった」という回答であった。

質問3 コンテンツ作品を視聴してみて、参考になる部分がありましたか。（保育士のみ）

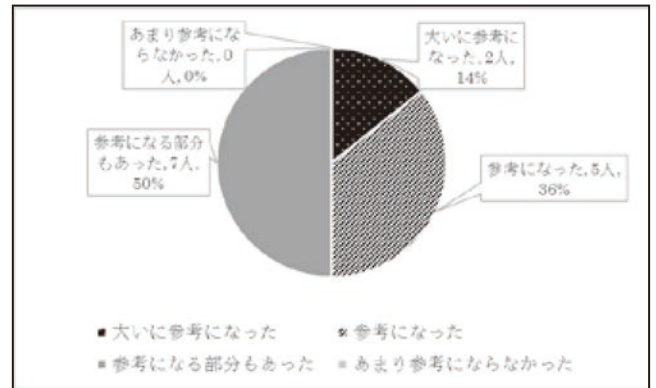


図13 保育士

一部分も含めれば、視聴したすべての保育士が参考になる部分があったと回答した。

質問4 今後研修会等で使用してみたいと思いますか。（保育士のみ）

表9 質問4回答

	人数
是非使用してみたい	0
使用してみたい	1
機会があれば使用してみたい	13
使用しない	0

保育士全員が、「研修会等で使用してみたい」と回答しているの、ニーズがあることがわかる。

質問5 他のコンテンツ作品等も見てみたいと思いますか。また、見たい作品の番号を選んでください。ただし、複数回答可とする。

（グラフの縦軸は作品タイトル（作品タイトルは下記参照）横軸は人数合計を示す）

表10 質問5回答

	保護者	保育士
是非見てみたい	2	1
機会があれば見てみたい	70	13
あまり見てみたいと思わない	5	0
見たいと思わない	0	0

表11 作品タイトル

1	母と三姉妹（青森市）
2	りんご農家の家庭（弘前市）
3	両親と6人兄妹（東北町）
4	両親と3人兄妹（東通村）
5	両親と3人兄弟（鶴田町）
6	酪農一家5人家族（三戸町）
7	子どもたちからのプレゼント （保育園編）
8	子どもたちの大切な居場所づくり （NPO編）
9	人と人をつなぎ、支える達人（連携編）
10	若者による子育て支援（大学生編）
11	40代の子育ては大変？
12	農業家族の支えあい
13	がんばれイクメン！
14	子どもと向き合うシングルマザー
15	共に働き、共に子育て
16	発達障害と向き合って
17	親子で感動できる空間（美術館編）
18	子どもの力を引き出す大切な時間 （保育園編）
19	放課後の子どもたちを支える （放課後の居場所編）
20	家庭教育支援者の育成 （県教育委員会編）
21	青森県家庭教育の最前線～まなざしあい～
22	青森県家庭教育の最前線～つながりあい～
23	郷土の芸能で育む心と絆
24	心を育む～あおもり性教育の現状～

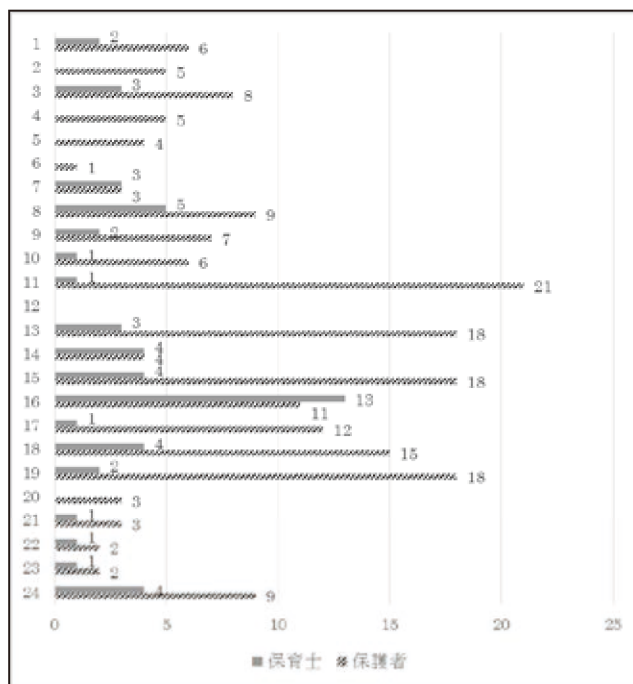


図14 見てみたい作品

保護者の回答では、質問2で「参考にならなかった」と回答している方の中の5人が、「あまり見てみたいとは思わない」と回答している。

保育士は全員が「見てみたい」と回答している。

平成26年度の途中でのアンケート実施だったため、家庭教育支援コンテンツの作品は平成24年度、25年度制作したもののみで実施した。

保護者の回答で多かった作品は、「40代の子育ては大変？」、「がんばれイクメン！」、「共に働き、共に子育て」、といった「子育て」に関する作品に対する関心が高いことがわかる。また、「子どもの力を引き出す大切な時間（保育園編）」、「放課後の子どもたちを支える（放課後の居場所編）」、「発達障害と向き合って」といった未来の子どもに関する内容の作品にも関心がある。

保育士の回答で多かったのは、圧倒的に「発達障害と向き合って」である。この分野は後述のアンケートにもあるが、ニーズの高いものとなっている。

質問6 今後どのような内容の作品を見てみたいですか。

ア 保護者回答

- ・働く親と幼稚園、保育園の関わり方など。
- ・八戸市の保育園のものだったので、青森市内も見たい。
- ・子どもとIT関連について。
- ・食への関心を高められる様な作品など。
- ・子育て広場などの紹介VTRがあれば様子やどのような遊びを一緒にできるのかがわかり、連れて行ってみようと思えるので、見てみたい。特に転勤などで子連れで来たときに見られれば嬉しい。

イ 保育士回答

- ・発達障害のことを詳しく知りたい。

保護者、保育士とも現在直面している課題解決へむけた内容の作品を視聴してみたいという希望があることがわかる。また、「IT」や「食」といった子どもが成長していくにつれて知りたい分野、関係のある分野の作品にも興味があることがわかる。

(2)教育委員会での活用事例

平成27年5月20日水曜日、横浜町教育委員会主催の「横浜町家庭教育研修会～親としての5年次研修～『親』になるってむずかしい？」が、よこはま保育所で、保育士及び保護者に向けて行われた。研修会は講義形式で行われ、講義の中で平成25年度制作した「共に働き、共に子育て」を使用した。以下、保護者及び保育士へのアンケート結果である。

質問1 家庭教育支援コンテンツを今までご覧になったことはありますか。

表12 質問1回答

	見たことがある	見たことがない
保護者	1	11
保育士	0	9

見たことがある保護者は、「ホームページで視聴したことがある」との回答であった。

質問2 今回視聴した作品はあなたの子育てに参考になりましたか。(保護者のみ)

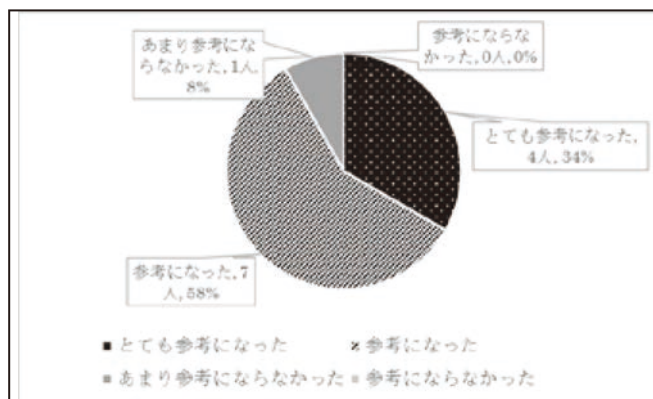


図15 保護者

92%の保護者が「参考になった」という回答であった。

質問3 コンテンツ作品を視聴してみて、参考になる部分がありましたか。(保育士のみ)

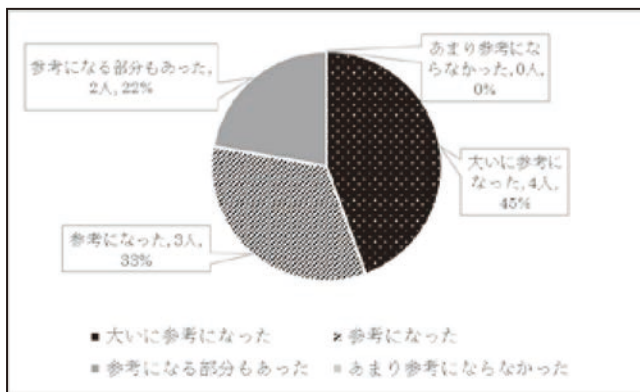


図16 保育士

一部分も含めれば、視聴したすべての保育士が「参考になった」と回答した。

質問4 今後研修会等で使用してみたいと思いますか。(保育士のみ)

表13 質問4回答

	人数
是非使用してみたい	1
使用してみたい	5
機会があれば使用してみたい	3
使用しない	0

保育士全員が、「研修会等で使用してみたい」と回答しているので、ニーズがあることがわかる。

質問5 本日視聴した作品についてのご意見や感想をご記入ください。

ア 保護者

- ・夫婦共に協力し合って子育てをしていて理想的だと思いました。
- ・DVDをみて子どもの「見て、聞いて」を今よりもっと時間を使って見たり聞いたりしてあげたいと思いました。
- ・とても理想だと思いましたが、現実には難しい。自分だけが変わろうと思っても、夫も変わってくれなければ。
- ・うちは共働きではないので、日々働いてくれるパパに感謝しようと思いました。
- ・自分と同じ共働きの家庭の話でしたが、皆笑顔で充実しているようで理想の家族でした。自分もそうなれたらと思いました。

- ・子育て、家族としてのあり方を改めて考えさせられました。

イ 保育士

- ・ポイントが明解で、メッセージ性があった。
- ・理想的なものでしたが、核家族以外のものも見てみたいです。
- ・とても参考になりました。
- ・自分と子どもとのつながりを見直してみたい。
- ・理想の家庭像だと思った。お互いに協力できるところは協力し合うべきだと思う
- ・児童クラブで待っている子どもが「さみしくない」といったが、本心はさみしいと思う。

全般的に作品に対しては好印象を持っている人が多く、共感できる内容であったと思われる。一方「理想的」という感想があるように、自分の家庭との違いを感じている人がいた。

質問6 今後どのような内容の作品を見てみたいですか。

ア 保護者

- ・発達障害児について。(3人)
- ・食育について。
- ・本日視聴したものに似たようなものでいいです。
- ・片親家庭の話。
- ・叱り方など。
- ・子どもの接し方など。

イ 保育士

- ・世代間交流の内容。
- ・発達障害のものが見てみたいです。(4人)
- ・小学校での様子。

どちらにも「発達障害」に関するニーズがある。特に保育士は質問4との関連性もあるように感じられる。また、「叱り方」、「接し方」などのいわゆる「How to」的な内容を見たいというニーズがある。

(3) 小学校就学時検診時での学習会における活用事例

平成27年11月11日水曜日、今別町立今別小学校において、就学時健診が行われた。入学予定の幼児が検査を受けている間、5名の保護者対象に家庭教育に関する学習会が開催された。家庭教育支援コンテンツを視聴後、ワークシートに自分の意見を記入し、全員で発表して、保護者間での意見の共有を行った。学習会では平成26年度制作した「食べ物から学ぶ」を使用した。以下、保護者へのアンケート結果である。

質問1 家庭教育支援コンテンツを今までご覧になったことはありますか。

表14 質問1回答

	見たことがある	見たことがない
保護者	0	5

残念ながら全員見たことがないという結果であった。

質問2 今回視聴した作品はあなたの子育てに参考になりましたか。

表15 質問2回答

	人数
とても参考になった	0
参考になった	5
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0

全員が「参考になった」という回答であった。

質問3 今後どのような場所でコンテンツを視聴したいと思いますか。

表16 質問3回答

	人数
自宅のパソコン	0
スマートフォン	4
学校等での講習会	1
公民館等	0
その他	0

保護者全員が所持しているスマートフォンでの視聴が8割となっており、気軽に、身近な場

所での視聴を希望するということがわかる。

質問4 本日視聴した作品についてのご意見や感想をご記入ください。

- ・包丁を使わせたいと思いました。
- ・何事にもチャレンジさせてみるのが大事なんだと感じました。
- ・やらせてみることで、好き嫌いもなくなるということにはっとした。
- ・やらせるっていうことは大事だと思った。

「やらせてみる」ということに、積極的に取り組んでいこうという意見を多くの保護者がもっていることがわかった。

質問5 今後どのような内容の作品を見てみたいですか。

- ・兄弟同士のけんかの接し方について。
- ・学習について。(勉強を自主的にするような導き方)
- ・勉強の仕方、やらせ方について。

数は少ないものの、「学習」についての視聴希望が多い。

参加した保護者のうち4名が昨年度当センター主催の「絆でつながる家庭教育支援セミナー」の受講者が企画した講座に親子で参加しており、子育てについて積極的に関わっているため、課題解決へ向けて学習しようという姿勢がうかがえる。

(4) 小学校PTAでの家庭教育学習会における活用事例

平成27年7月9日水曜日、青森市立堤小学校PTA主催の家庭教育学習会が、堤小学校図書室で開催された。1年生から6年生までの保護者に向けて行われ、16名の参加であった。学習会では、グループを3つに分け、家庭教育支援コンテンツ視聴後、ワークシートに個人の意見を記入。その後グループで意見交換を行い、最後にグループの代表が発表し、全体での意見共有を行った。学習会では平成26年度制作した「食べ物から学ぶ」を使用した。以下、保護者へのアンケート結果である。

質問1 家庭教育支援コンテンツを今までご覧になったことはありますか。

表17 質問1回答

	見たことがある	見たことがない
保護者	1	15

見たことがある保護者は、「ホームページで視聴したことがある」との回答であった。

質問2 今回視聴した作品はあなたの子育てに参考になりましたか。

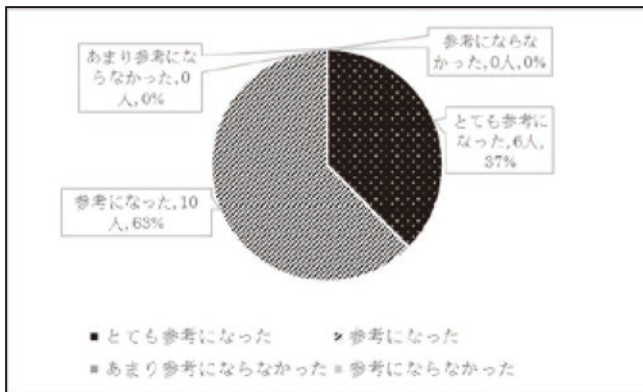


図17 保護者

全員の保護者が「参考になった」という回答であった。

質問3 今後どのような場所でコンテンツを視聴したいと思いますか。

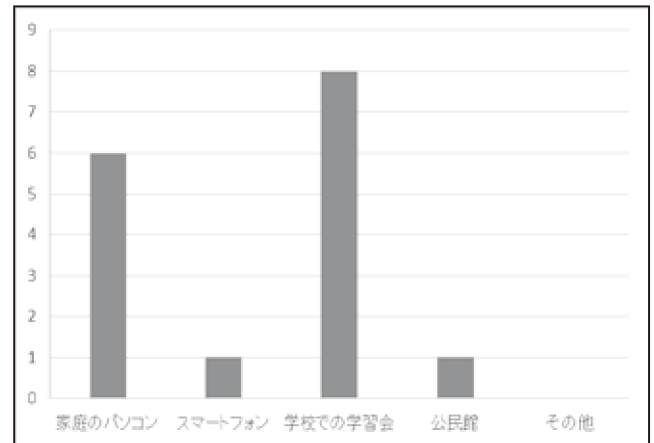


図18 質問3回答

若干ではあるが、「パソコン」や「スマートフォン」といった個人で学習する形態よりは「学習会」や「公民館」といった仲間で学習する形態を希望する保護者が多い。

質問4 本日視聴した作品についてのご意見や感想をご記入ください。

- ・色々な子育ての面で悩んでいることを皆で話せて良かったです。
- ・他のご家庭での食育に関する工夫などとても参考になりました。
- ・子どもと一緒に食事を作る経験をさせていくことで、嫌いなものも気にならない。家庭でも実践させてみたいと思いました。
- ・もう少し初心にかえって母親業を頑張りたいと思いました。
- ・親の心の余裕が子どもの成長に影響していくと感じた。様々な体験を通して子どもが気づいていく過程を大切に見守れる親でいたいと思った。
- ・食育的なことは各家庭で伝えていかなければ多い部分だと思うので、改めて大切なことだと実感しました。青森はたくさんおいしい作物があるので活用したいと思います。

コンテンツを視聴することでの気づきが多岐に渡り、保護者の興味関心が高いことがうかがえた。

質問5 今後どのような内容の作品を見てみたいですか。

- ・子どものネット活用法みたいなことなど。
- ・機会があればまたこの作品を見てみたい。
- ・幼児対象のものも見てみたいです
- ・作品は姉妹だったので、男の子が出る作品を見てみたいです。
- ・不登校に関する作品
- ・反抗期の対応の仕方、いじめ問題。
- ・上の子が発達障害なので、そういったものも見てみたいです。
- ・思春期やもう少し突っ込んだ内容のものを視聴したいです

関連した作品も視聴したいという感想もあるが、現在保護者が直面している、あるいは周囲に存在している問題についての内容に関する作品に興味があることがわかる。

#### (5) 中学校職業講話における活用事例

青森市内にある2つの中学校で開催された職業講話に講師として参加した際、講話の中で家庭教育支援コンテンツを中学生に視聴してもらった。講義形式であったため、家庭教育支援コンテンツを視聴後その場で意見交換をする時間が確保できなかったため、アンケートでの確認となった。講話では平成26年度制作した「思春期、どう接してる？」を使用した。以下、中学生のアンケート結果である。

ア 平成27年9月11日金曜日、青森市立浦町中学校で実施したアンケート結果

質問1 家庭教育支援コンテンツを今までご覧になったことはありますか。

表18 質問1回答

	見たことがある	見たことがない
1年男子	0	1
1年女子	0	4
2年男子	0	10
2年女子	0	3
3年男子	0	2
3年女子	0	0

受講した中学1年生から3年生までの20人全員が見たことがないと回答した。

質問2 あなたが作品中の「直樹君」だったら、どのように親に接したいですか。

- ・学校の出来事をなるべく伝える。
- ・照れて言えないこともたくさんあるけれど、その中でも感謝の気持ちだけはしっかりと伝えたい。
- ・会話を大事にしていきたい。
- ・「ありがとう」とかの気持ちを改めていうことはできないけど、ちよくちよく言っていきたい。
- ・なるべく親に正直になりたい。
- ・積極的に話しかける

回答の多くは「会話を大事にしたい」「感謝の気持ちを伝えたい」というように会話をして、自分の気持ちを伝えたいということが多い。

質問3 あなたは将来どんな親になりたいですか。

- ・子どもにはできればやりたいことをやらせたい。
- ・子どもの気持ちを理解して子どもに接することができる親。
- ・いちいちくどく子どもに言わない親。
- ・子どもに困ったことがあったときは優しくしたり、一緒に解決できるような親になりたい。
- ・ある程度の理解と厳しさが両立した親。
- ・思春期になった子どもを温かく見守れる親になりたいです。
- ・子どもにしっかりと生き方を伝えることができる親になりたい。

大部分に共通しているのが、「子ども気持ちを理解する」という意見である。現在の自分の状況と重ね合わせて考えていると推察されるので、「やりたいことをやらせたい」「子ども第一に」という意見は、現在の生徒自身の思いかもしれない。

質問4 あなたが親になったときに、子どもに伝えたいことは何ですか。

- ・人を思いやることは大事だということ。勉強をしっかりして遊ぶということ。
- ・人に優しくすることの大切さ、努力することの力、理解して話すこと。
- ・人とコミュニケーションをとることで、いろんな知識が身につくこと。
- ・自分に正直になり、自分に負けるな。
- ・何でもこまったことがあったら力になるということ。
- ・好きなことはしっかりやる。
- ・将来の夢を叶えるために、しっかりとしたしつけなどをすることを伝えたい。

現在親に言われていることもあると考えられるが、それぞれしっかりとした考えを持っていることがわかる。

質問5 本日視聴した作品について気づいたこと、感じたことなどは何ですか。

- ・どんなに恥ずかしくても、親と子の会話はとても大切。話をするということの大事さを感じた。

- ・人は大きくなっていくことで、接し方など変わることが多いことがわかった。
- ・わかりやすかった。
- ・親の難しさ、直樹君の気持ちと共感しました。
- ・思い返すと自分も親にそっけない態度をとってしまっていたかもしれないので、もっと接していこうと思った。
- ・このような作品は必要だと思うので、もっと皆に見せればいいと思う。
- ・大人に近づくと段々と口数は減っていくけど、親に感謝しながら生きていくことが大切であること。

自分と同じくらいの年齢の「直樹君」だったので、共感する生徒が多かった。そして、様々なことへの「気づき」に繋がっている生徒もいた。

質問6 今後どのような内容の作品を見てみたいですか。

- ・いじめに対する内容の作品。
- ・今日の内容の作品を別の家庭で見たい。
- ・怒るときの工夫点など。
- ・時間のうまい使い方の例。
- ・悩みの解決する作品。
- ・この作品の続き。
- ・自分と関わりのある人とのコミュニケーションのとり方について。
- ・今後は高校生の親への接し方をみたいです。

「時間の使い方」や「悩みの解決」といった直面する課題、「続編」や「高校生」といったこれからの課題に対して参考となる作品の視聴希望がある。

イ 平成27年11月5日木曜日，青森市立浪打中学校で実施したアンケート結果

質問1 家庭教育支援コンテンツを今までご覧になったことはありますか。

表19 質問1回答

	見たことがある	見たことがない
1年男子	0	9
1年女子	0	0
2年男子	1	1
2年女子	0	3
3年男子	0	9
3年女子	0	5

「見たことがある」と回答した生徒は、「幼稚園・保育園（所）で見た」と回答している。

質問2 あなたが作品中の「直樹君」だったら、どのように親に接したいですか。

- ・同じように極力話は聞くようにしたい。だがもっと返事をしたり，無理をしない範囲で色々話したりはしたい。
- ・直樹君みたいに親に感謝の気持ちをもって接したい。
- ・「恥ずかしい」だけではなく，言いたい，話したいということがあったらちゃんと言いたい。
- ・無理せずあまり意識しないで接したい。
- ・恥ずかしくても，忙しくても，自分の事をしっかり理解してくれている親に感謝して正直に話したい。
- ・言えない事はあっても，なるべく本当の気持ちを伝え，素直に接したい。

「会話をする」と考えている生徒が多い。また「無理をせずに」という回答あり，ある程度の親との距離感をとりたいと考えていることがわかる。

質問3 あなたは将来どんな親になりたいですか。

- ・子どもや奥さんの気持ちをわかってあげられる頼れる親になりたい。
- ・その子にあったペースを見つけれられる親になりたい。

- ・子どものしたいようにさせてあげながら，社会のことについてもちゃんと教える。
- ・あまり他と比べたりせず，子どものできる範囲で無理のない生活をさせられる人。
- ・直樹君の両親のように関わりながらも成長を見守っていききたい。
- ・ダメな事はダメとしっかり教育できる親。できるだけ自由にやりたいことをやらせてあげられる親。

浦町中学校の生徒同様，「子どもの気持ちを理解する」が一番多い回答であった。また，「子どものしたいように」と回答している一方「教える」ということもしっかりとっていききたいという生徒も多い。

質問4 あなたが親になったときに，子どもに伝えたいことは何ですか。

- ・勉強の大切さや，相手の気持ちをよく考えること。
- ・感謝を忘れないこと。
- ・自分自身のペースで進みなさいということ。
- ・親がしていることのありがたさについて。
- ・友達を作ることの大切さや勉強の大切さについて。
- ・今，小さい頃にやるべき（やっておくべき）こと。

現在体験していること，これから体験するであろうこと，現在の保護者が生徒達にしていることなど，様々な種類の回答があった。

質問5 本日視聴した作品について気づいたこと，感じたことなどは何ですか。

- ・ふだん見られない他の家庭の様子が見られて，自分の家庭との違いがわかった。
- ・ちゃんと向き合うのが大切ということ。
- ・アニメなどでなく，実際の家庭の話なので身近に感じる事ができた。
- ・とても分かりやすいし，共感できた。
- ・違う家の親ですが，自分の親もこんなことを思っているのかなと思った。
- ・直樹君の意見は共感できる。たしかに自分も反抗はしたくなる。これから機会があればこのような作品を見て，考えを深めたいと思う。
- ・私たちが悩んだりしているとき，親も悩んでいたり，本当に私たち子どものことを心配し

ていることがわかった。

中には批判的な回答もあるが、「共感」できている生徒が多く。また、身近に感じたり、親の気持ちを理解できたりと新たな気づきがあった生徒もいたと考えられる。

質問6 今後どのような内容の作品を見てみたいですか。

- ・直樹君の続きがみたい。
- ・いじめとかの解決方法の動画。
- ・人として成長していく過程をみられるようなもの。
- ・自分と同じ年代の人が出ている作品。
- ・思春期ではなくもっと小さいときの作品。

「続編が見たい」、「同じ年代の人が出ている作品が見たい」とあるように、自分と共感できる作品に興味関心が高いという回答が多かった。

中学校2校のみの実施であるが、アンケートの回答が似た傾向であった。

## (6)大学での講義における活用事例

弘前大学及び八戸学院短期大学において、ゲストティーチャーとして、家庭教育支援に関する90分の講義を行った。その中で青森県の取組として、「家庭教育支援コンテンツ」の紹介をした。講義では平成25年度制作した「発達障害と向き合って」、平成26年度制作した「地域で活躍し続ける家庭教育支援」を使用した。以下、大学生のアンケート結果である。

ア 平成27年7月1日水曜日弘前大学で実施したアンケート結果

質問1 家庭教育支援コンテンツを今までご覧になったことはありますか。

表20 質問1回答

	見たことがある	見たことがない
男子学生	1	28
女子学生	1	69

見たことがある学生は、男女とも「幼稚園・保育園（所）」との回答であった。

質問2 今回視聴した作品は今後のあなたの子育てに参考になりましたか。

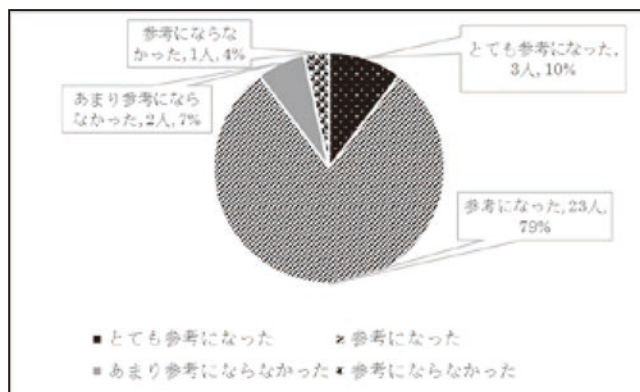


図19 男子回答

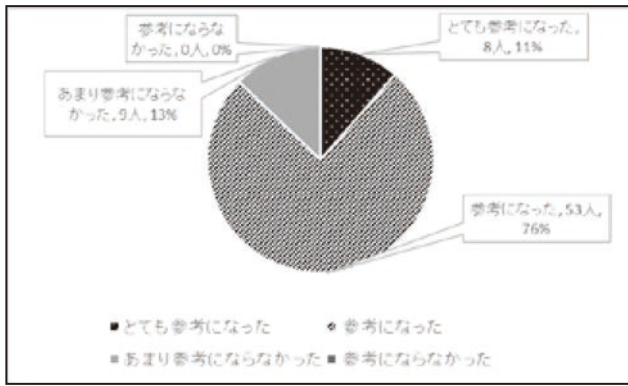


図20 女子回答

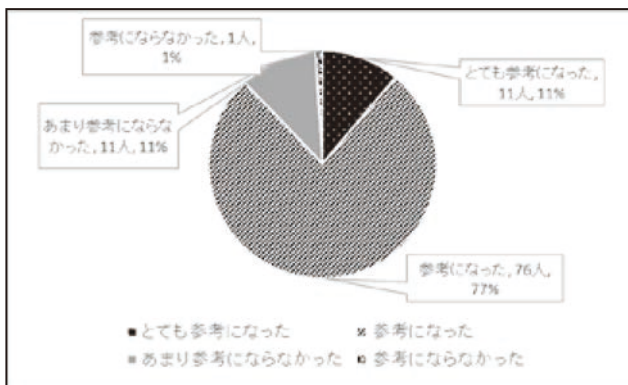


図21 男女合計の回答

男子の方が女子より参考になったと回答した人が若干多かった。全体でも88%の学生が参考になったと回答した。

質問3 本日視聴した作品について気づいたこと、感じたことなどご意見やご感想をご記入ください。

(ア) 「発達障害と向き合って」について

- ・自分が将来子どもを持ったとして、その子が障がいを持っていたらどうしたらいいのかははっきりいって分からない。リアルな家庭を見られる映像はとても価値があると感じた。
- ・発達障害を持つ子どもがいることに対して、お母さんが少しも辛そうなどマイナスなイメージを抱かない作りになっていて良かった。
- ・障がいをもっていることがわかりづらいという問題があり、驚いた。
- ・スーパーの定員さん達のように、周りの理解と協力で誰も暮らしにくさを感じないような世の中になればいいなと感じた。
- ・「子どもが自閉症だったおかげで自分も成長できた」という言葉により印象を受けた。

・母親が発達障害の子ども達の通う保育園に勤めていたことがあり、その子達の行動の話やどのように意思疎通をしていたかの話を聞いていたため、驚きはなかったし、親の苦悩もそうだなあと思った。私は母からそういう話を聞いていたから知っていたけれど、そうでない人も多い。より多くの人に発達障害について知ってほしいと思った。

学生の大多数は「地域の協力がある」、「母親が前向きですごい」、「家庭の様子を見ることができて参考になった」という回答が多かった。

(イ) 「地域で活躍し続ける家庭教育支援」について

- ・このような活動の運営にぜひ参加したいと思った。もし、同様の活動を町内でやらせたらどうなるのか、町全体が仕掛け人となればもっと大きな事ができると思った。
- ・子どもたちのために画面に映った以上の人が協力していることを考えると、地域全体での子育てを感じることができました。
- ・家庭の中だけでなく、地域とのつながりの中での教育も必要なんだなと思った。
- ・「遊べる場が少ないならつくってしまおう」という意識がすごいと思います。動画で紹介されていたイベントはとても楽しそうで、こんな取り組みがあるんだと初めて知った。
- ・このような機会をもっともっとふやせたらいいなと思った。自分も親になったら参加したい。

学生の回答の多くに「初めて知った」という言葉が多い。また、家庭教育支援者に対して「安心する」という回答と「自分もやってみたい」という回答があり、コンテンツを視聴することで、興味関心をもったことがわかる。

質問4 今後どのような内容の作品を見てみたいですか。

- ・障がいのある子どもたちとその支援についての映像をもっと見てみたい。
- ・男の人による育児の悩みまたは楽しさについての作品を見てみたいと思った。
- ・子ども自身の力を信じて見守ることの大切さを訴える作品を見たい。

- ・長期入院生活を送らなければならない子どもの家庭教育。
- ・経済的困窮の母子家庭の作品。言葉で伝えるより動画の方がお母さんの苦労が伝わると思う。

担当者が気づかなかったテーマの作品をあげている学生もおり、こちらの方も参考になった。また、発達障害をはじめ、障がいに関係する作品に対するニーズが高い。

イ 平成27年11月27日金曜日八戸学院短期大学で実施したアンケート結果

質問1 家庭教育支援コンテンツを今までご覧になったことはありますか。

表21 質問1回答

	見たことがある	見たことがない
男子学生	0	6
女子学生	0	17

受講した23人の学生全員が「見たことがない」という回答であった。

質問2 今回視聴した作品は今後のあなたの子育てに参考になりましたか。

表22 質問2回答

	男子学生	女子学生
とても参考になった	4	6
参考になった	2	11
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0

男子学生の方が、女子学生に比べて、「とても参考になった」と回答した割合が高いものの、全員が「参考になった」という回答であった。

質問3 本日視聴した作品について気づいたこと、感じたことなどご意見やご感想をご記入ください。

(ア) 「発達障害と向き合っ」について

- ・障がいを持った子どもだと悲観しないで、その子どもとのコミュニケーションや接し方を積極的にすると普通の子どものと何ら遜

色のない子と一緒にだと思った。

- ・私のいとも自閉症なので共感できた。
- ・障がいがある子どもが生まれた事で、もっと大切な事を学ぶ事ができるという所はとても感動した。
- ・自閉症について、あまりよく知らなかったので、知るいい機会になったと思う。
- ・発達障害は家族だけでなく、地域社会全体で支えていかなければならないと思った。
- ・障がいを持っている人がどのように過ごしているかを知らなかったが、見てみると親の気持ちなどもよく分かってよかった。男子学生、女子学生とも、この作品を見て「感動した」、「障がいについてわかった」という回答が多かった。

(イ) 「地域で活躍し続ける家庭教育支援」について

- ・子ども達を楽しませるために多くの人が動いていて活動していて、やってみたいと思った。
- ・家庭教育と言われるとなんとなく、家庭の問題と思えるが、地域が協力してこのようなイベントをする事も、家庭教育なのだなと感じた。
- ・子ども達の「楽しさ」が伝わった。
- ・地域の家族で楽しみながら交流し、支援していくことはとてもいいことだと思った。
- ・地域を活性化するだけではなく、子ども達との絆を深め、地域のことをよく知り、子ども達だけでなく、地域の人々やボランティアの方々とも協力関係が深まっている。
- ・地域での活動は、普段子ども達が見せない部分が見え、子ども自身が成長でき、とても良い支援だと思った。

家庭教育支援者について及びその活動についてほとんどの学生が知らなかったという回答が多かった。また、地域の支えやつながりの重要性の理解にも繋がっている。

質問5 今後どのような内容の作品を見てみたいですか。

- ・虐待された子どもや不登校に関する作品。
- ・片親の人達の事や年寄り達の現在。
- ・他の障がいを抱えている方達のこと。
- ・子ども達だけでなく、大人だけではなく、子どもも大人も両方とも活躍している映像

を見たい。

- ・色々な発達障害があるので、自閉症のように生まれもった障がいについての作品を見たい。

多少家庭教育からずれているような回答もあるが、全体的に「障がいについて」見たいという回答が多い。

## IV 今後の活用についての考察

### 1 制作について

平成26年度企画制作委員会の会議の中で、ある委員から「家庭教育支援コンテンツ作品にも啓発的な内容が含まれている」という発言があった。この意見を参考に、平成27年度からは「家庭教育支援啓発教材」の制作をやめ、「学習教材（一般家庭向け）」と「学習教材（家庭教育支援者向け）」というように対象を明確にし、一般家庭向けの作品10本を委託制作、家庭教育支援者向けの作品2本を県社教センター自主制作とした。また、平成26年度末のアンケート結果にもあるように、今日的な課題や障がいに関係すること、また、How to的な作品に対する希望があること。更に、幼稚園や小学校では参考になる作品も異なることから、各成長段階に応じた課題に対応するような作品を制作することとした。

感想にもあるように、この家庭教育支援コンテンツが青森県内の家庭を取材して制作しているので、より身近なものに感じ、共感し、そこから何かを感じ取ることができていることがわかる。そして、アンケート結果にもあるように、ほとんどの人が「今まで視聴したことがない人」であったが、視聴した後は「参考になった」と回答している。一度視聴すれば、この作品の良さはわかっていただけるだろう。

また、中学生や大学生の感想にもある通り、まだ親になっていない世代の人が見ても十分に参考になっていることがわかる。例えば「他の障がいについての作品が見たい」という感想にあるとおり、一度の視聴がきっかけで新たな視聴に繋がる可能性がある。そして、新たな作品に対するニーズに発展していくと感じた。

すべてをカバーすることは難しいが、アンケート等を実施し、視聴者のニーズがあり、視聴者の身近にあることとして感じることができるような作品を、また、県教育委員会として県民へ伝えていきたい内容の作品を制作していきたい。

### 2 活用方法について

今回、家庭教育支援コンテンツを用いた講座等をいくつか実施した。その中で気づいたことは、講義形式で一方向的に行うのではなく、受講者等で意見を共有することの方が効果が高いということである。特に自分の考えを一度紙に書

き出すことがとても良いと感じた。中学生はグループに分かれて話し合いができなかったが、アンケートを見て解るように、しっかりと自分の意見を書くことができています。これを用いて、グループでの意見の共有ができれば、堤小学校のPTAの方々のように更なる気づきがあったに違いない。

実際に堤小学校での研修会において、以下の展開例、ワークシートを用いて実施した。参加した保護者が、コンテンツを視聴して、意見や感想についてグループで共有し、その後、全体で共有することで、より多くの気づきを吸収できている場面を目の当たりにすると、改めて「親の学び」に効果があることが実感できた。

一方今別町でもグループでの共有は行われたが、こちらは研修の時間が短いため、話し合いが少ししかできなかった。やはりある程度の時間は必要であると感じた。

企画委員会である委員が、「家庭教育支援コンテンツを制作するのと同じくらいのエネルギーを持って、見てもらうための工夫をしなければいけない」という発言があった。その工夫の一つが、「家庭教育支援コンテンツを用いた講座」であると考えている。センターの担当者が行うのにプラスして、各市町村の家庭教育担当者が講座を実施することで、今まで以上に視聴者が増えることは明らかである。そのためには、展開例等の作成が必要になってくる。可能であれば、展開例を用いた「家庭教育支援コンテンツを用いた講座」についての研修会が実施できればよいと考える。もちろんDVDを送付する際にこの展開例やワークショップを同封したり、ホームページ上で公開するなど、より利用しやすい手立てが必要になる。

また、大学生の回答を見ると、想像していた以上に、視聴による効果があったと感じた。現在は現役のパパやママ、祖父母を対象に制作しているが、もうすぐ社会人となる高校生や大学生を対象とした作品や家庭教育に関する講座の必要性を感じた。

家庭教育支援コンテンツを活用しての家庭教育学習会 ～食べ物から学ぶ～		
プログラム名	家庭教育支援コンテンツを視聴することにより、親としてできることを考える。	
ねらい	「食べ物」を通して、地元の野菜そのものについて知ることももちろん、調理の仕方や子供、家族で食事をする楽しさなど、子どもたちは多くのことを学びます。また、「食べ物」に関する地域活動を通して、子どもたちの心の成長にもつながっています。そこで、子どもの心身の発達にたつて、身近な体験活動が大切であることを確認し、こうした機会が得られるよう親として出来る事を考えます。	
実施対象・時間	対象/幼児～小学生をもつ親	時間/60分
時間	学習内容	展開のポイント
10分	○学習のねらい ○学習の約束 ○アイスブレイク ○グループ分け ○自己紹介	・学習のねらいをわかりやすく伝える ・学習の約束を確認 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする ・話し合いがしやすいように、4～6人のグループをつくる ・グループ内で自己紹介をする(1人30秒程度)
40分	①コンテンツを視聴する ワーク1 ②食育的なことで心がけていることを記入する ③②についてグループで話し合う	・自分や自分の家庭と似たような経験がないか思い出しながら視聴する ・「食べ物」に関連して、様々な子育て、家庭教育があることに気づく
	ワーク2 ①手頃について困っていることを記入する ②①についてグループで話し合う	・家族の目線の開けが子どもの心の成長を育むことにつながることに気づく
	ワーク3 ①どんな体験させているか、その時の子どもの様子を、グループで話し合う ②体験活動と子どもの成長について説明する	・遊び、生活体験、自然体験、奉仕活動、地域活動など様々な体験があることに気づく ・子どもの成長につながることを整理する
10分	ふりかえり ①気づいたことを記入し、グループで発表する ②全体で共有する	・グループの代表者に発表してもらい共有する

図22 展開例

コンテンツを視聴して次のことについて話し合いましょう。➡

**ワーク1** 家で食育的なことで心がけていることは何ですか？

**ワーク2** 手頃について困っていることはありますか？

**ワーク3** 地域での活動(勉強会やイベント等)に参加させていますか？

**ふりかえり** どんなことに気づきましたか？

図23 今回講座で使用したワークシート

### 3 課題について

この事業の大きな課題は以下の2つである

- (1) 作品の内容について。
- (2) より多くの人に視聴してもらうためにはどうすればよいか。

(1)に関しては、アンケートにある「今後どのような内容の作品を見てみたいですか。」の回答をみてもわかるとおり、本当に多種多様である。限られた本数の中で、いかに視聴者の希

望を満たす内容の作品を制作するかが大切になってくる。

(2)に関しては、今年度新たな取り組みを行っている。その一つが「家庭教育支援コンテンツを用いた講座」である。視聴者の生の声を聞くことができ、作品に対する意見感想を共有することができる。そしてそこから新たな作品に対するニーズ等を得ることもできる。しかし、「今年度の取り組み以外することがない」という訳ではなく、今以上にどうすれば多くの人に視聴してもらうことができるのかを考える必要がある。例えばCMを制作し動画サイトへの投稿をする。大学生から「You tubeなど、若い人はこのサイトを見ているので、そこで視聴できるようにするといい」という意見もあるので、スマートフォン向けサイトの構築とあわせて実施する。より多くの保護者にチラシが行き渡る工夫をする。他部局との連携をするなど。現在できていないことも多数存在するので、制作と併せて工夫していきたい。

## IV おわりに

今回この研究紀要作成のため、様々な場所で家庭教育支援コンテンツを用いた研修会等を行うことができた。アンケートにもあるが、家庭教育支援コンテンツを視聴した多くの人が「参考になった」という感想を持っている。改めて映像の持っているポテンシャルを感じることもできた。その反面、この作品を視聴するためには、パソコン等を用いて自宅で視聴するか、研修会等で視聴するかしかなかく、いずれにしても本人が「見たい」という意思がなければ視聴できない環境にあり、「探す」という行為がプラスされてしまっている。このことが、アンケートにもあるように多くの人が「今まで視聴したことがない」という回答になっていると考えられる。どのような手段を用いればより多くの人に視聴してもらえるのか、考えなければならない。

作品の内容にせよ、活用方法にせよまだまだ改善の余地は多い。たくさんの人に視聴してもらい、学びの機会となるように、これからもよい作品、効果的な活用法を研究し、発表していきたい。

最後に、年度末や研修会等でアンケートにご協力いただいた方々に深くお礼を申し上げます。

〈引用・参考文献〉

- ・教育振興基本計画（第1期計画，第2期計画）  
（文部科学省）
- ・青森県基本計画未来への挑戦（青森県）
- ・青森県総合社会教育センター要覧  
（1989～2015）
- ・あおもり親学プログラム（青森県教育委員会）



ISSN(International Standard Serial Number)  
とは、膨大な刊行量をもつ逐次刊行物の的確な把握と情報処理、流通の円滑化、利用の促進を図る必要から個々の逐次刊行物に与えられる国際的な識別コード番号のこと。

---

研 究 紀 要

第 27 号

平成 28 年 3 月 発行

編集・発行 青森県総合社会教育センター

〒030-0111 青森市荒川字藤戸 119-7

Tel 017-739-1252 Fax 017-739-1279

<http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>

E-mail : E-SHAKYO@pref.aomori.lg.jp

(印刷 青森コロニー印刷 TEL 017-738-2021)

---

この印刷物は 600 部作成し、印刷経費は 1 部当たり 241.5 円です。

